

ASUS[®]

A7V880

ユーザーガイド

Motherboard

J1654

第二版

2004年5月

Copyright© 2004 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

購入者がバックアップの目的で利用する場合を除き、本書中に示されるハードウェア・ソフトウェアを含む、本マニュアルのいかなる部分も、ASUSTeK COMPUTER INC. (ASUS)の文書による明示的な許諾なく、再構成したり、転載・引用・放送・複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合、製品の保証やサービスを受けることができません：(1)ASUSが明記していない方法で、修理、改造、交換した場合。(2)製品のシリアル番号が傷つけられていたり、失われていた場合。

ASUSは、明示および暗示を問わず、いかなる保証もなく現状のものとして本書を提供します。ただし、市場の状況や特定の目的のための変更を除きます。ASUSの責任者、従業員、代理人は、本書の記述や本製品から生じるいかなる間接的、直接的、偶発的、二次的な損害（利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む）に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負うことはありません。

本書の仕様や情報は、個人の使用目的のためにのみ供給されます。予告なしに内容が変更されることがあります。しかし、この変更はASUSの義務ではありません。本書およびハードウェア、ソフトウェアの間違い・不正確さについて、ASUSは対応義務も責任もありません。

本書中の製品名や企業名は登録商標や著作物の場合があります。本書では、識別、説明、およびユーザーの便宜をはかる目的にのみ使用しており、権利を侵害する目的はありません。

もくじ

ご注意	vi
安全上の注意	vii
本ガイドについて	viii
本ガイドの表記について	viii
書体	viii
A7V880 仕様のまとめ	ix
第 1 章: はじめに	
1.1 ようこそ!	1-2
1.2 梱包の内容	1-2
1.3 特殊機能	1-3
1.3.1 製品のハイライト	1-3
1.3.2 独特なASUS機能	1-4
1.4 続行する前に	1-5
1.5 マザーボードの概要	1-6
1.5.1 マザーボードのレイアウト	1-6
1.5.2 配置方向	1-7
1.5.3 ネジ穴	1-7
1.6 中央処理装置(CPU)	1-8
1.6.1 概要	1-8
1.6.2 CPUを取り付ける	1-8
1.7 システムメモリ	1-10
1.7.1 DIMM ソケットの位置	1-10
1.7.2 メモリ構成	1-10
1.7.3 DIMMの取り付け	1-13
1.8 拡張スロット	1-13
1.8.1 割り込みの割り当て	1-13
1.8.2 このマザーボード用のIRQ割当	1-14
1.8.3 PCI スロット	1-14
1.8.4 AGP スロット	1-15
1.8.5 Wi-Fiスロット	1-16
1.9 ジャンパ	1-17
1.10 コネクタ	1-20
1.10.1 背面パネルコネクタ	1-20
1.10.2 内部コネクタ	1-21

もくじ

第 2 章: BIOSセットアップ

2.1	BIOSの管理と更新	2-2
2.1.1	起動可能なフロッピーディスクの作成	2-2
2.1.2	AFUDOSを使用してBIOSを更新する	2-3
2.1.3	AFUDOSを使用してPCからBIOSをコピーする	2-4
2.1.4	ASUS EZフラッシュを使用して、 BIOSを更新する	2-5
2.1.5	CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する	2-6
2.2	BIOSセットアッププログラム	2-8
2.2.1	BIOSメニュー画面	2-9
2.2.2	メニューバー	2-9
2.2.3	ナビゲーションキー	2-9
2.2.4	メニューアイテム	2-10
2.2.5	サブメニューアイテム	2-10
2.2.6	構成フィールド	2-10
2.2.7	ポップアップウィンドウ	2-10
2.2.8	スクロールバー	2-10
2.2.9	全般ヘルプ	2-10
2.3	メインメニュー	2-11
2.3.1	System Time	2-11
2.3.2	System Date	2-11
2.3.3	Legacy Diskette A	2-11
2.3.4	1次および2次IDE マスタ/スレーブ	2-12
2.3.5	システム情報	2-13
2.4	詳細メニュー	2-14
2.4.1	インスタントミュージック構成	2-14
2.4.2	チップセット	2-15
2.4.3	オンボードデバイス構成	2-18
2.4.4	PCI PnP	2-19
2.4.5	ジャンパフリー構成	2-21
2.4.6	USB構成	2-22
2.5	電源メニュー	2-23
2.5.1	Suspend Mode	2-23
2.5.2	Repost Video on S3 Resume	2-23
2.5.3	ACPI 2.0 Support	2-24
2.5.4	ACPI APIC Support	2-24
2.5.5	APM 構成	2-24
2.5.6	ハードウェアモニタ	2-26

もくじ

2.6	ブートメニュー	2-27
2.6.1	ブートデバイスのプライオリティ	2-27
2.6.2	ブート設定構成	2-28
2.6.3	セキュリティ	2-29
2.7	メニューの終了	2-31
第 3 章: サポートソフトウェア		
3.1	OSのインストール	3-2
3.2	サポートCDについて	3-2
3.2.1	サポートCDの起動方法	3-2
3.2.2	ドライバメニュー	3-3
3.2.3	ユーティリティメニュー	3-3
3.2.4	ASUS サポート情報	3-4
3.3	ASUS インスタントミュージックライト	3-5

ご注意

Federal Communications Commission Statement

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手できます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。ASUS連絡先情報を参照してください。

1. ASUS ウェブサイト

ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報があります。ASUSのWebサイトは、表紙内側のASUS連絡先に一覧表示されています。

2. 追加ドキュメント

パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店が追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

安全上の注意

電氣的安全性について

- ・ 本製品について作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、短絡事故の原因になる場合があります。
- ・ 電源装置が故障していないか、正しい電圧を出力しているか確認してください。電源装置に異常がある場合は、電源装置のメーカーにご相談ください。
- ・ 電源装置は、ご自分で修理しようとししないでください。修理はメーカーまたは専門家に依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属しているすべてのマニュアル・ドキュメントをお読みください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルの接続を確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。短絡事故の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、購入店などの専門家に依頼してください。

本ガイドについて

本ガイドの表記について

本書では重要な注意事項について、以下の記号(アイコン)を用いています。表示内容をよく理解して必ずお守りください。



危険/警告: 感電やけがなどの人身事故を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



注意: 装置や部品の故障や破損を防ぐために必ず守らないといけない注意事項です。



重要: 作業を正しく完了するために必ず守らないといけない注意事項です。



注: 作業を正しく完了するために必要なヒントと情報です。

書体

ボールド体テキスト	メニューまたは選択するアイテムを示します。
イタリック体	言葉または熟語を強調するために使用されます。
<キー>	小なり記号と大なり記号に囲まれたキーは、囲まれたキーを押さなければならないことを示します。例: <Enter> は、EnterまたはReturnキーを押さなければならないことを示します。
<複数のキーの名前>	2つ以上のキーを同時に押さなければならない場合、キー名はプラス記号(+)で結びつけられています。例: <Ctrl+Alt+D>
コマンド	示されたとおりにコマンドを入力し、括弧内に表示された適切な値を供給する必要があることを意味します。例： DOSプロンプトで次のコマンドラインを入力します： afudos /i[filename] この例では、[filename]のファイル名を供給しなければなりません。 afudos /iA7V880.ROM

A7V880 仕様のまとめ

CPU	Socket A、AMD Athlon™ XP プロセッサ用 AMD Thoroughbred/Barton core をサポート
チップセット	VIA KT880 VIA VT8237
前面サイドバス	400/333/266/200 MHz
メモリ	デュアルチャンネルメモリアーキテクチャ 最大 4GB のバッファなし非 ECC PC3200/PC2700/ PC2100/PC1600 SDRAM メモリ向け 4 x 184 ピン DDR DIMM ソケット
拡張スロット	1 x AGP 8X 5 x PCI 1 x ASUS 独自の WiFi スロット (ワイヤレス LAN アップグ レード用)
記憶装置	- 2 x Ultra DMA 133/100/66/33 コネクタ - 2 x RAID 0、RAID 1 付き シリアル ATA
オーディオ	S/PDIF アウト インターフェイスに対応した ADI AD1888 SoundMAX® 6 チャンネル オーディオ Codec サポート
LAN	Marvell® 88E8001 Gigabit LAN コントローラ (仮想ケーブ ル付き) Tester™ (VCT) ネット診断ユーティリティ
USB	最大 8 つの USB 2.0 ポート
オーバークロックン グ機能	CPU およびメモリ電圧 (調整可能) SFS (ステップレス周波数選択)(MHz 単位で) 調整可能な FSB/DDR 比 ASUS ジャンパフリー ASUS C.P.R. (CPU パラメータリコール)
特殊機能	ASUS AI NET ASUS C.O.P. (CPU オーバーヒートプロテクション) ASUS C.P.R. (CPU パラメータリコール) ASUS EZ Flash ASUS CrashFree BIOS2 ASUS MyLogo™ ASUS Instant Music Lite ASUS Q-Fan ウェイクアップオンリング、LAN、USB、キーボード、マ ウス STR (サスペンドトゥラム) STD (サスペンドトゥディスク)

(次ページに続く)

A7V880 仕様のまとめ

背面パネルI/O	1 x パラレルポート 1 x シリアルポート 1 x PS/2キーボードポート 1 x PS/2マウスポート 4 x USB 2.0ポート 1 x S/PDIFアウト 1 x RJ-45ポート ラインイン/ラインアウト/マイクポート
内部I/O	4つの追加USBポート対応の2 x USB 2.0コネクタ CPU/シャーシファンコネクタ 20ピン/4ピンATX 12V電源コネクタ CD/AUXコネクタ S/PDIFアウトコネクタ GAME/MIDIコネクタ オーディオラインイン/アウト/マイクコネクタ 前面パネルコネクタ シャーシ侵入コネクタ
BIOS機能	4Mb Flash EEPROM、Award BIOS、PnP、DMI2.0、WfM2.0、SM BIOS 2.3、ACPI、ASUS EZ Flash、CrashFree BIOS 2、C.P.R.、MyLogo™
業界標準	PCI 2.2、USB 2.0/1.1
管理可能性	WfM 2.0、PMEによるWOL、PMEによるWOR
電源要件	ATX電源装置
フォームファクタ	ATXフォームファクタ: 30.5 cm x 24.4 cm
サポートCD の内容	デバイスドライバ ASUS PC Probe ASUS Live Update ユーティリティ Trend Micro™ PC-cillin™ ウイルス駆除ソフト

* 仕様は、将来予告なしに変更することがあります。

第1章

本章では、マザーボードの機能について説明いたします。本章にはマザーボードコンポーネントの簡単な説明、レイアウト、ジャンパ設定、コネクタのイラストが含まれています。

はじめに

1.1 ようこそ

ASUS® A7V880 マザーボードをお買い上げいただきありがとうございます！

ASUS A7V880マザーボードはホストに新機能と最新テクノロジーを提供して、ASUSの高品質マザーボードの長い製品ラインにもう一つの標準を作り上げました！

本マザーボードはAMD Athlon™ XPプロセッサのパワーとVIA KT880チップセットを組み合わせ、効果的なデスクトッププラットフォームソリューションに対して新しいベンチマークを設定しています。

PC3200/PC2700/PC2100/PC1600 DDR SDRAMを搭載した3GBまでのシステムメモリ、AGP 8Xスロットを介した高解像度グラフィックス、シリアルATAのサポート、RAID、USB 2.0、および6チャンネルオーディオ機能をサポートするA7V880は、パワーコンピューティングの世界で前進するための完璧な手段となっています！

マザーボードの取り付け、およびマザーボードにハードウェアデバイスの取り付けを開始する前に、下に一覧する付属品が梱包にあるかチェックしてください。

1.2 梱包の内容

A7V880の梱包に、次の付属品があるかチェックしてください。

- ✓ ASUS マザーボード
- ✓ ASUS サポート CD
- ✓ シリアル ATA ケーブル (x 1) (二分岐)
- ✓ シリアルATA 電源変更ケーブル (x 1)
- ✓ 4 ポートUSB モジュール(ケーブル付) (x 1)
- ✓ UltraDMA 133/100/66 IDEドライブ用80コンダクタリボンケーブル (x 1)
- ✓ 40 コンダクタ IDE ケーブル(x 1)
- ✓ 3.5 インチフロッピードライブ用リボンケーブル (x 1)
- ✓ I/O シールド
- ✓ 予備のジャンパキャップ用バッグ
- ✓ ユーザーガイド



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

1.3 特殊機能

1.3.1 製品のハイライト

最新のプロセッサテクノロジー

マザーボードは、462 ピン表面実装ZIFソケットを介して最新のAMD Athlon™ Athlon™ XP、AMD Duron™ プロセッサをサポートします。AMD Athlon™ と AMD Athlon™ XP プロセッサは400Mhz 前面サイドバスと QuantiSpeed™アーキテクチャを搭載し、アプリケーションの高速実行を実現します。

シリアルATAソリューション

本マザーボードは、オンボードのシリアルATA (SATA) インターフェイスを通して新しいシリアルATA テクノロジーをバンドリングしています。SATA仕様により、低いピンカウント、低減された電圧要求、最大150 MB/秒のデータ転送速度を持つ、薄くて柔軟性に富むケーブルが可能になります。

シリアルATA RAID

本マザーボードは2つの高性能シリアルATA RAIDコントローラを提供し、追加 RAIDカードに費用を費やすことなく、ハードディスクパフォーマンスとデータバックアップ保護を強化しています。オンボード VIA VT8237 RAID コントローラは RAID 0 と RAID 1機能を実現するために、2つのシリアルATAコネクタを追加しています。

AGP 8Xサポート

AGP 8X (AGP 3.0)はVGAインターフェイス仕様で、最大2.12 GB/秒のバンド幅速度によりグラフィックスパフォーマンスをさらに向上させています。

S/PDIFアウト

マザーボードは S/PDIF アウト機能をサポートしているため、お使いのコンピュータは強力なスピーカーシステムにデジタル接続されたハイエンドなエンターテインメントシステムに一変します。

USB 2.0 テクノロジー

本マザーボードはユニバーサルシリアルバス(USB) 2.0仕様を実装して、USB 1.1の12 Mbpsのバンド幅からUSB 2.0の高速480 Mbpsまで、接続速度を劇的に上げています。USB 2.0はUSB 1.1と下位互換性を持っています。

6チャンネルオーディオソリューション

本マザーボードはオンボードオーディオCodecを使用して、最新のサウンドカードを買わずに高品質6チャンネルオーディオをお楽しみいただけます。

1.3.2 独特なASUS機能

ASUS Wi-Fiスロット

ASUS Wi-Fi スロットは ASUS WiFi-b™ アッドオンカード向けに設計されており、ワイヤレスLAN向けの環境をセットアップします。ASUS WiFi-b™ アッドオンカードは独占的なソフトウェアアクセスポイント(AP)をバンドルして、スタンドアロン AP の追加費用を節約します。それだけでなく、カードは使いやすいユーティリティとアプリケーションが搭載し、ノートブック、PDA、その他のワイヤレス LAN 周辺装置に素早く接続することが可能です。1-16 ページをご覧ください。

AI NETソリューション

Marvell® Gigabit LAN コントローラチップセットはボード上に搭載されて、LAN オンマザーボード(LOM)アプリケーション用のシングルチップソリューションを提供しています。コントローラは 32 ビット 10/100/1000BASE-T Gigabit イーサネットメディアアクセスコントロール(IEEE 802.3 準拠)と物理層トランシーバソリューションを統合して、高性能ネットワークアプリケーションをサポートします。コントローラには仮想ケーブルテスト(VCT)ネット診断ユーティリティが付属し、100 メートルまでの離れた場所からケーブル障害をインテリジェントに診断して報告します。この機能により、より安定したネットワーク接続を維持することができます。

ASUS Qファンテクノロジー

ASUS Qファンテクノロジーはシステムローディングに従ってファン速度をスマートに調節し、静かで、熱を発生させない、効率的な操作を確保します。2-26ページをご覧ください。

CrashFree BIOS 2

この機能により、BIOSコードやデータが破損したとき、サポートCDやブート可能なフロッピーディスクからオリジナルのBIOSデータを復元することが可能になります。この保護により、交換用のROMチップを買う必要がなくなります。2-6ページをご覧ください。

ASUS MyLogo™

マザーボードに搭載されたこの新機能により、カスタマイズ可能なブートロゴでシステムに自分のスタイルを追加することができます。2-28ページをご覧ください。

C.P.R. (CPU パラメータリコール)

マザーボードのC.P.R.機能により、オーバークロックのためにシステムがハングアップした場合、BIOSのデフォルト設定を自動的に再設定することができます。オーバークロックのためにシステムがハングアップしたとき、C.P.R.はシステムシャーンを開かずにRTCデータを消去します。BIOSはユーザーがCPU設定を再び修正できるように、前の設定を表示します。

C.O.P. (CPUオーバーヒートプロテクション)

AMD® Athlon XP™/Athlon MP™ 対応のASUS C.O.Pはプロセッサのオーバーヒートを防止します。CPU温度が95°Cを越えるとシステムは自動でシャットダウンします。ハードウェアによる保護回路ですので、より速い反応でマザーボードを保護します。

ASUS EZ Flash BIOS



ASUS EZ Flashを使うと、オペレーティングシステムをロードする前でもシステム BIOSを簡単に更新できます。DOSベースのユーティリティやフロッピーディスクからブートする必要はありません。2-5ページをご覧ください。

ASUS インスタントミュージックライト



この独特な機能により、オペレーティングシステムに入らなくてもオーディオCDを再生することができます。ASUSインスタントミュージックの特殊機能キーを押すだけで、音楽をお楽しみいただけます！2-14、3-5ページをご覧ください。

1.4 続行する前に

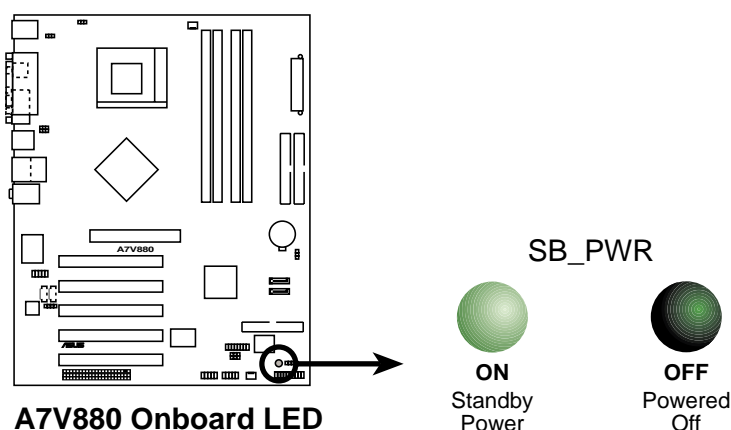
マザーボードコンポーネントを取付ける前に、またはマザーボード設定を変更する前に、次の注意事項を守ってください。



1. コンポーネントに触れる前に、コンセントから電源コードを抜く。
2. コンポーネントを取り扱う前は、静電気で損傷しないように、アースされたリストバンドを使用するか、安全にアースされた物体または電源装置のケースなどの金属物体に触れる。
3. ICに触れないように、コンポーネントを持つときは端をつかむ。
4. コンポーネントを取り外すときは、必ずアースされた静電気防止パッドの上に置くか、またはコンポーネントに付属する袋の中に入れる。
5. コンポーネントの取り付け/取り外しを行う前に、ATX電源装置の電源がオフになっていることを、または電源コードが電源装置から抜いてあることを確認する。そうしないと、マザーボードや周辺装置、コンポーネントなどが損傷する原因となります。

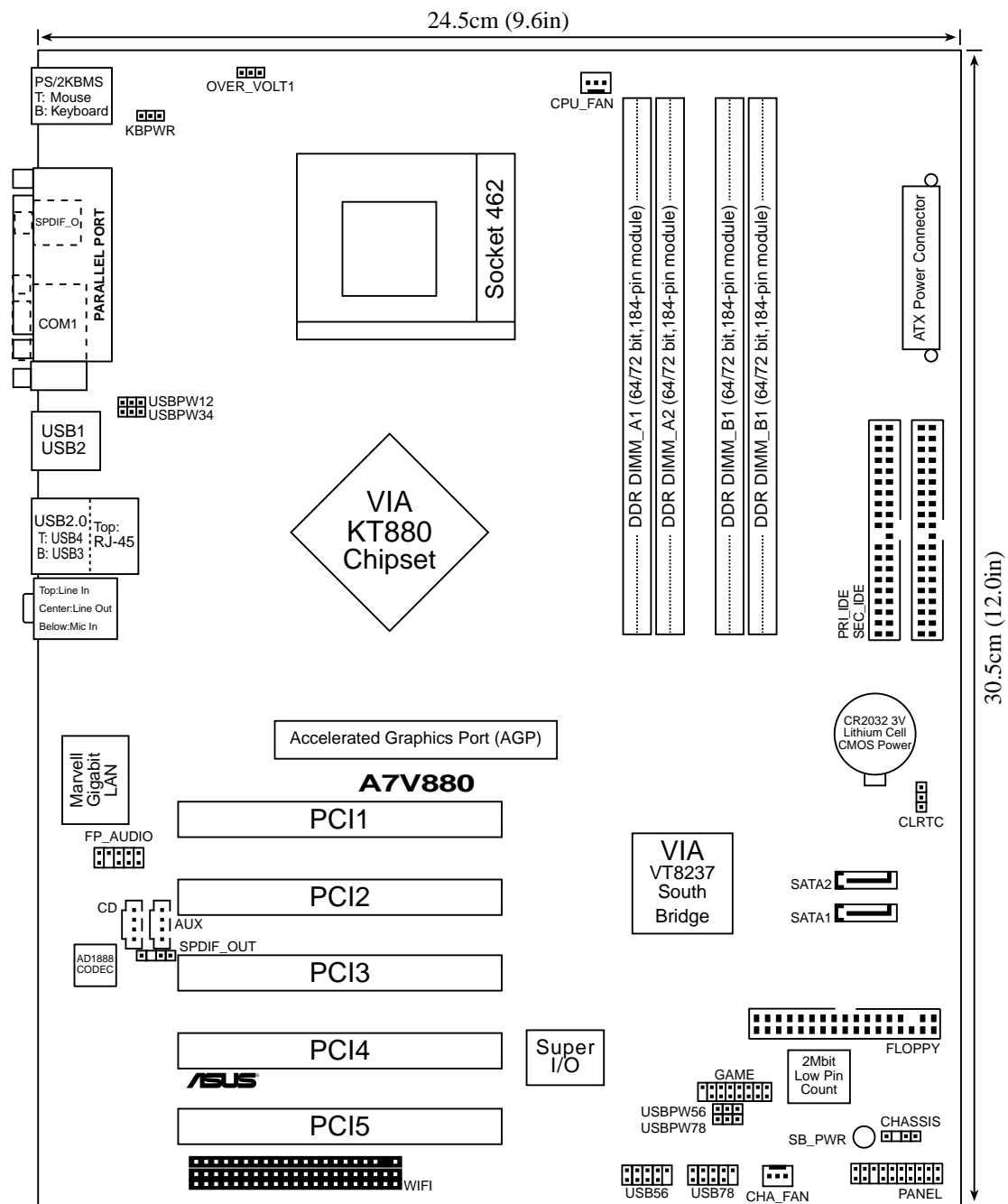
オンボードLED

マザーボードには、スタンバイ電源 LED が付属しています。LED が緑色に点灯しているとき、システムがオン、スリープモードまたはソフトオフモードになっていることを示し、マザーボードコンポーネントにケーブルの取り付けや取り外しを行う前に、システムをシャットダウンし、電源ケーブルを抜く必要があることを喚起します。下の図は、オンボード LED の場所を示します。



1.5 マザーボードの概要

1.5.1 マザーボードのレイアウト



1.5.2 配置方向

マザーボードを取付けるとき、マザーボードがシャーシに正しい向きで配置されていることを確認してください。外部ポートのあるエッジは、下の図に示すようにシャーシの背面にあります。

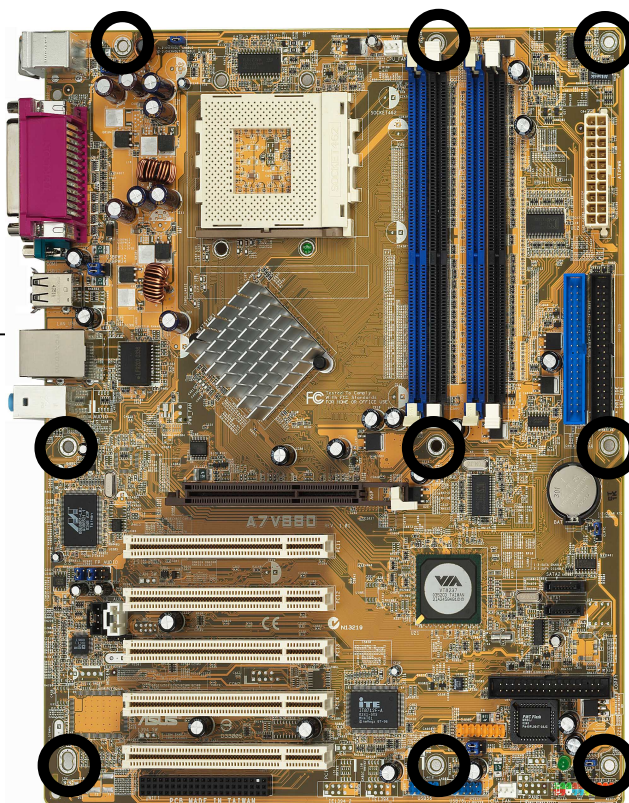
1.5.3 ネジ穴

9本のネジを円で示された穴に取り付け、マザーボードをシャーシに固定します。



ネジをきつく締めすぎないでください! マザーボードが損傷する原因となります。

この面をシャーシ背面に向けて置いてください。

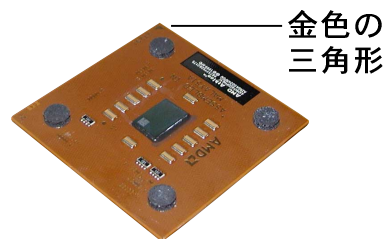


1.6 中央処理装置(CPU)

1.6.1 概要

マザーボードには、AMD Athlon™ XP, AMD Athlon™ XP, AMD Duron™ プロセッサ用に設計された、表面実装462ピンゼロインサージョンフォース(ZIF) ソケットが付属しています。

CPU のマークされた隅(金色の三角形付き)に注意してください。取り付けを正しく行うには、このマークがソケットの特定の隅に合わせる必要があります。

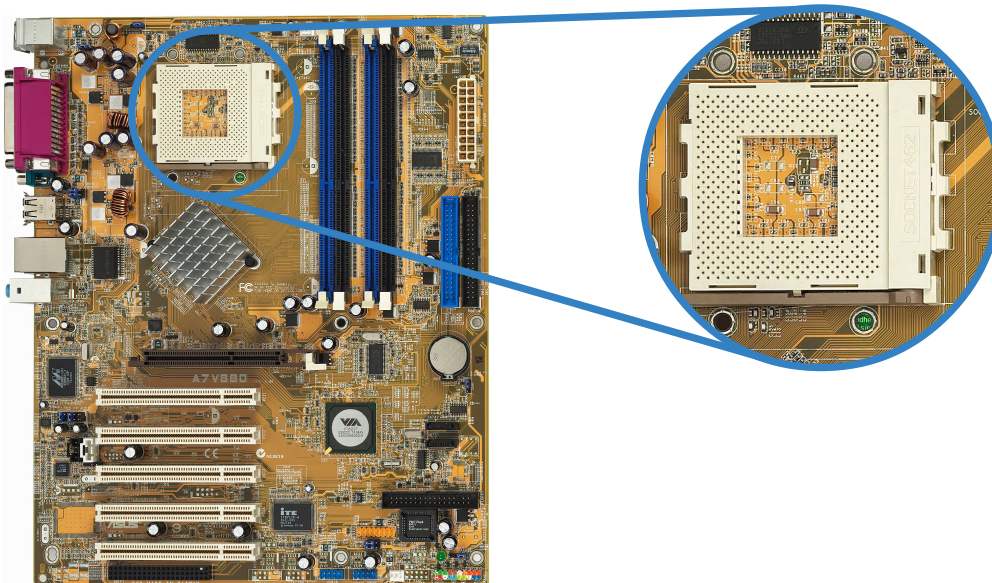


本マザーボードでは、1GHz より低いコア速度でプロセッサを使用しないでください。

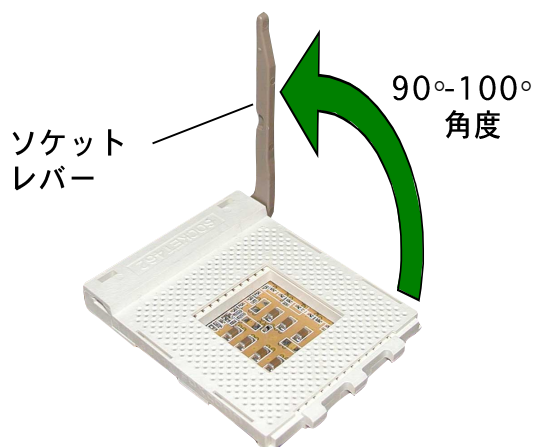
1.6.2 CPUを取り付ける

次の手順に従って、CPUを取付けます。

1. マザーボードで、462ピンZIFソケットを探します。

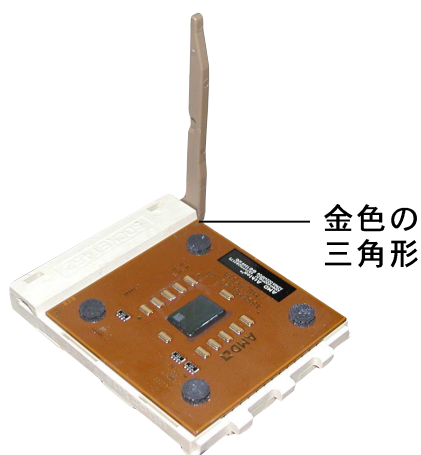


2. レバーを横側に押し、ソケットのロックを解除し、90°-100°の角度まで持ち上げます。



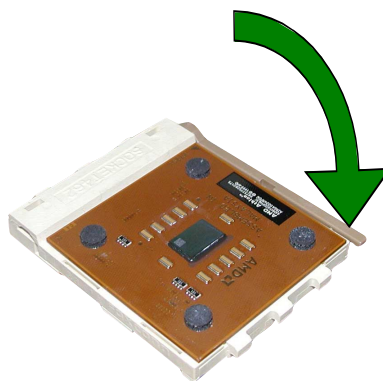
ソケットレバーが90°-100°の角度に持ち上げられていることを確認してください。そうでないと、CPUは完全にフィットしません。

3. CPUを、そのマークが付いたコーナーがソケットレバーの台に一致するように、ソケットの上に配置します。
4. CPUが適切な位置にフィットするまで、ソケットにそっと差し込みます。



CPUは1つの方向にしか正しくフィットしません。CPUをソケットに差し込むときに無理に力を入れないでください。ピンが曲がったり、CPUが損傷する原因となります。

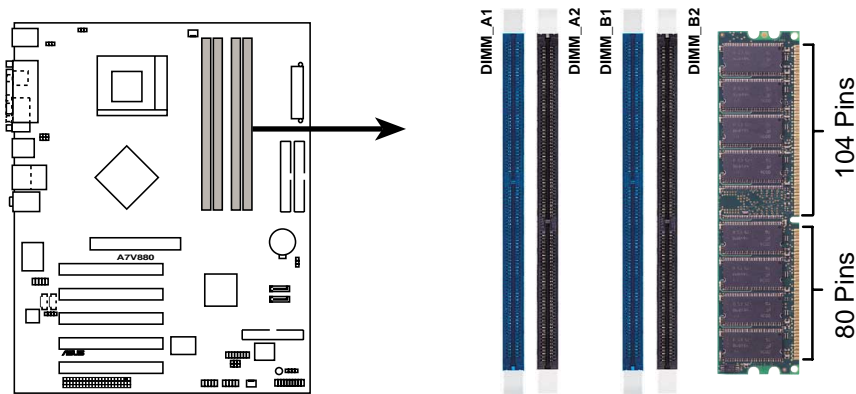
5. CPUを適切な場所に取り付けたら、ソケットレバーを押し下げてCPUを固定します。レバーがサイドタブでカチッと鳴ると、ロックされたことを示します。



1.7 システムメモリ

1.7.1 DIMM ソケットの位置

次の図は、DDR DIMMソケットの位置を説明しています。



A7V880 184-Pin DDR DIMM Sockets



- まず、青いDIMMスロットを使用することをお勧めします。
- DIMMまたはその他のコンポーネントの増設または取り外しを行う前に、電源装置を抜いていることを確認してください。そうしないと、マザーボードとコンポーネントがひどい損傷をこうむる原因となります。
- 長いAGPカードを取り付けるとき、まずメモリモジュールを取り付けることをお勧めします。取り付けられた長いAGPカードは、メモリソケットの邪魔になることがあります。

1.7.2 メモリ構成

本項のメモリ構成を使用して、64MB、128MB、256MB、512MB、1GB DDR DIMMをDIMMソケットに取り付けることができます。

重要な注



- 推奨する構成以外のDDR DIMMを取り付けると、メモリサイジングエラーとシステムブートエラーが起こる原因となります。表1の推奨構成をご使用ください。
- デュアルチャンネル構成の場合、各チャンネルに対して同一(同じタイプとサイズ)のDDR DIMM ペアのみを取り付けてください。
- まず、青いDIMMスロットを使用するようにお勧めします。
- 18以上のチップを搭載した積層RAM とDDR DIMM モジュールは、サポートされていません。
- 常に同じCASレイテンシを持つDIMMを取り付けてください。最適の互換性を得るには、同じベンダーからメモリモジュールを入手することをお勧めします。ページ1-11の推奨ベンダーリストをご覧ください。

DDR 推奨ベンダーリスト (QVL)

次の表は、このマザーボードで使用するためにテストされ認可を得た、PC3200 (DDR400)メモリモジュールの一覧を表示しています。

表1 DDR400 推奨ベンダーリスト (QVL)

サイズ	ベンダー	モジュール	ブランド	SS/DS	コンポーネント	DIMM 構成		
						A*	B*	C*
256MB	A DATA	MDOAD5F3G31YB1EZ2	ADATA	SS	ADD8608A8A-5B	•	•	•
256MB	A DATA	MDOAD5F3G315B1EC2	ADATA	SS	ADD8608A8A-5B	•	•	•
256MB	A DATA	MDOSS6F3G31JB1EAE	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
256MB	A DATA	MDOSS6F3G31YK1EZZ	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	A DATA	MDOWB5F3G316B1EAE	Winbond	SS	W942508BH-5	•	•	•
256MB	A DATA	MDOWB5F3G31JB1EAE	Winbond	SS	W942508BH-5	•	•	•
256MB	Apacer	77.10728.11A	Infineon	DS	HYB25D256800BT-6B			•
256MB	Apacer	77.10636.11G	Infineon	SS	HYB25D256800BT-5B	•	•	•
512MB	Apacer	77.10736.11G	Infineon	DS	HYB25D256800BT-5B	•	•	•
512MB	Apacer	77.10736.18G	Infineon	DS	HYB25D256809BT-5B	•		•
512MB	Apacer	77.10736.18G	Infineon	DS	HYB25D256809BT-5B	•	•	•
256MB	Apacer	77.10636.465	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
512MB	Apacer	77.10736.464	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
256MB	ATP	AG32L64T8SQC4S	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
512MB	ATP	AG64L64T8SQC4S	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
512MB	ATP	AG64L72T8SQC4S	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCC4(ECC)	•	•	•
256MB	Brain Power	B6U808-256M-SAM-400	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
512MB	Brain Power	B6U808-512M-SAM-400	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCC4	•	•	•
256MB	CENTURY	DXV6S8SSCCD3K27C	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCCC	•	•	•
512MB	CENTURY	DXV2S8SSCCD3K27C	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCCC	•	•	•
512MB	CENTURY	DXV2S8SSCCE3K27E	SAMSUNG	DS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	CENTURY	DXV6S8MC5BC3U27E	MICRON	SS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	•
512MB	CENTURY	DXV2S8MC5BC3U27E	MICRON	DS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	•
512MB	CORSAIR	CMX512-3200C2	Winbond	DS	Heat-Sink Package	•	•	•
512MB	CORSAIR	VS512MB400	VALUE seLecT	DS	VS32M8-5	•	•	
256MB	CORSAIR	CMX256A-3200C2PT	Winbond	SS	W942508BH-5	•	•	•
256MB	elixir	M2U25664DS88B3G-5T	NANYA	SS	N2DS25680BT-5T	•	•	•
256MB	hynix	HYMD232646B8J-D43 AA	Hynix	SS	HY5DU56822BT-D43	•	•	•
512MB	hynix	HYMD264646B8J-D43 AA	Hynix	DS	HY5DU56822BT-D43	•	•	•
512MB	Infineon	HYS64D64320GU-5-B	Infineon	DS	HYB25D256800BT-5B	•	•	
256MB	Infineon	HYS64D32300GU-5-B	Infineon	SS	HYB25D256800BT-5B	•	•	•
512MB	Infineon	HYS64D64320HU-5-C	Infineon	DS	HYB25D256800CE-5C	•		
256MB	KINGMAX	MPXB62D-38KT3R	KINGMAX	SS	KDL388P4EA-50	•	•	•
512MB	KINGMAX	MPXC22D-38LT3R	KINGMAX	DS	KDL388P4EA-50	•	•	•
256MB	KINGMAX	MPXB62D-38LT3R	MOSEL	SS	V58C2256804SAT5B	•	•	•
512MB	KINGMAX	MPXC22D-38LT3R	MOSEL	DS	V58C2256804SAT5B	•	•	•
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A	KINGSTON	SS	D3208DL2T-5	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A	KINGSTON	DS	D328DIB-50	•	•	•
512MB	KINGSTON	KHX3200A	N/A	DS	Heat-Sink Package	•	•	
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A	Hynix	SS	HY5DU56822BT-D43	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A	Hynix	DS	HY5DU56822BT-D43	•	•	•
256MB	KINGSTON	KVR400X64C3A	Infineon	SS	HYB25D256800BT-5B	•	•	•
512MB	KINGSTON	KVR400X64C3A	Infineon	DS	HYB25D256809BT-5B	•	•	
256MB	Kingston	N/A	Mosel	SS	V58C2256804SAT5			•
256MB	Kingston	N/A	Winbond	SS	W942508BH-5			•
256MB	Kreton	N/A	VT	SS	VT3225804T-5	•	•	•
512MB	Kreton	N/A	VT	DS	VT3225804T-5	•	•	•
256MB	MICRON	MT8VDDT3264AG-40BCB	MICRON	SS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	
512MB	MICRON	MT16VDDT6464AG-40BCB	MICRON	DS	MT46V32M8TG-5BC	•	•	
256MB	Pmi	MD44256VIT3208GMHA01	MOSEL	SS	V58C2256804SAT5B	•	•	•
512MB	Pmi	MD44512VIT3208GATA03	MOSEL	DS	V58C2256804SAT5B	•	•	•
512MB	PSC	AL6D8A53T1-5B	PSC	DS	A2S56D30ATP	•	•	•
256MB	PSC	AL5D8B53T-5B1K	PSC	SS	A2S56D30BTP	•	•	•

(次ページに続く)

表1 DDR400 推奨ベンダーリスト (QVL)

サイズ	ベンダー	モジュール	ブランド	SS/DS	コンポーネント	DIMM 構成		
						A*	B*	C*
512MB	PSC	AL6D8B53T-5B1K	PSC	DS	A2S56D30BTP	•	•	•
512MB	SAMSUNG	M368L6423ETM-CCC	SAMSUNG	DS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	SAMSUNG	M368L3223ETM-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	SAMSUNG	M368L3223FTN-CCC	SAMSUNG	SS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
512MB	SAMSUNG	M368L6423FTN-CCC	SAMSUNG	DS	K4H560838F-TCCC	•	•	•
1024MB	Transcend	TS128MLD64V4A3	SAMSUNG	DS	K4H560438E-GCCC	•	•	•
256MB	Transcend	TS32MLD64V4F3	SAMSUNG	SS	K4H560838D-TCCC	•	•	•
512MB	Transcend	TS64MLD64V4F3	SAMSUNG	DS	K4H560838D-TCCC	•	•	•
512MB	Transcend	TS64MLD64V4F3	SAMSUNG	DS	K4H560838E-TCCC	•	•	•
256MB	Transcend	TS32MLD64V4F3	Mosel	SS	V58C2256804SAT5B	•	•	•
512MB	Transcend	TS64MLD64V4F3	Mosel	DS	V58C2256804SAT5B	•	•	•
512MB	TwinMos	M2G9J16AJATT9F0811DDT	TwinMos	DS	TMD7608F8E50B	•	•	•
256MB	TwinMos	M2G9I08AIATT9F081AADT	TwinMos	SS	TMD7608F8E50D	•	•	•
512MB	TwinMos	M2G9J16AJATT9F081AADT	TwinMos	DS	TMD7608F8E50D	•	•	•
512MB	TwinMos	M2G9J16AGATT9F081AA4T	TwinMos	DS	TMD7608F8E50D	•	•	•
256MB	TwinMos	M2G9I08AFATT9F081AA4T	TwinMos	SS	TMD7608F8E50D	•	•	•
256MB	Veritech	VT400FMV/2561103	VT	SS	VT56DD32M8PC-5	•	•	•
512MB	Veritech	VT400FMV/5121003	VT	DS	VT56DD32M8PC-5	•	•	•
256MB	Winbond	W9425GCDB-5	Winbond	SS	W942508CH-5	•	•	•
512MB	Winbond	W9451GCDB-5	Winbond	DS	W942508CH-5	•	•	•

凡例:

A* - 一つのモジュールをサポートして、任意のスロットに差し込み、単一チャンネルメモリ構成が完成です。

B* - 任意の2つのモジュールをサポートします。

C* - 4枚のモジュールをサポートして、ブルーとブラックのスロットに差し込み、2対のデュアルチャンネルメモリ構成の設定が完成です。

SS - 片面 DIMMs

DS - 両面 DIMMs



- デュアルチャンネル構成の場合、各チャンネルに対して同一(同じタイプとサイズ)の DDR DIMM ペアのみを取り付けてください。
- 最高のシステム性能を得るために、ASUS推奨のベンダーからのみDDR DIMMをお求めください。

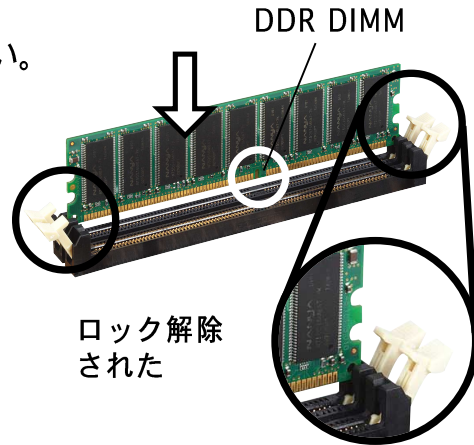


最新の認可を得たベンダーのDDR 400推奨ベンダーリスト一覧については、ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスしてください。

1.7.3 DIMMの取り付け

次の手順に従って、DIMMを取り付けてください。

1. 保持クリップを外側に押し、DIMMのロック解除を行います。
2. DIMMのノッチがソケットの裂け目に一致するようにDIMMをソケットに合わせます。
3. 保持クリップがカチッと音を立てて適切な位置に閉まりDIMMが正しく取り付けられるまで、DIMMをソケットにしっかりと挿入します。



DDR DIMM には、一方向にのみフィットするようにノッチが付いています。DIMMが損傷する原因となるので、DIMMをソケットに無理に押し込まないでください。

1.8 拡張スロット

拡張カードを取り付け構成するには、次の手順に従います：

1. シャーシに付属する取扱説明書に従って拡張カードを取り付けます。
2. システムの電源をオンにし、必要なBIOS設定を行います。BIOSセットアップの詳細については、第2章をご覧ください。
3. IRQをカードに合わせます。次ページの表を参照してください。
4. カードのマニュアルに従って、拡張カード用のドライバおよびソフトウェアアプリケーションをインストールします。

1.8.1 割り込みの割り当て

標準の割り込み割当

IRQ	優先順位	標準機能
0	1	システムタイマ
1	2	キーボードコントローラ
2	N/A	プログラム可能割当
3*	11	通信ポート (COM2)
4*	12	通信ポート (COM1)
5*	13	サウンドカード (LPT2の場合もあります)
6	14	フロッピーディスクコントローラ
7*	15	プリンタポート (LPT1)
8	3	システムCMOS/リアルタイムクロック
9*	4	ACPIモード (使用時)
10*	5	PCIステアリング用IRQホルダ
11*	6	PCIステアリング用IRQホルダ
12*	7	PS/2互換マウスポート
13	8	数値データプロセッサ
14*	9	1次 IDE チャンネル
15*	10	2次 IDE チャンネル

*これらのIRQは、通常ISAまたはPCIデバイスで利用できます。

1.8.2 このマザーボード用のIRQ割当

	INT A	INT B	INT C	INT D
PCI slot 1	—	—	—	使用済み
PCI slot 2	共有	—	—	—
PCI slot 3	—	使用済み	—	—
PCI slot 4	—	—	共有	—
PCI slot 5	共有	—	—	—
Gigabit LAN	—	—	共有	—
AGP slot	共有	—	—	—



共有スロットでPCIカードを使用しているとき、デバイスがIRQの共有サポートしていることを、またはカードがIRQ割当を必要としていないことを確認してください。そうでないと、2つのPCIグループの間で競合が発生し、システムが不安定になったりカードを操作できなくなったりします。

1.8.3 PCI スロット

スロットはLANカード、SCSIカード、USBカード、およびPCI仕様に準拠するその他のカードなどのPCIカードをサポートします。



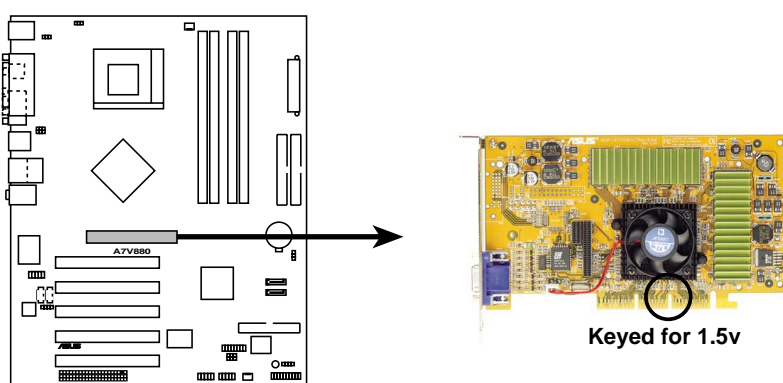
1.8.4 AGP スロット

AGP8X/4X(+1.5V)カードをサポートする加速グラフィックスポート(AGP)スロット。AGPカードをご購入になるとき、+1.5V仕様に準拠するカードを求めていることを確認してください。

カードのゴールデンフィンガーのノッチは、マザーボードのAGPスロットに確実にフィットするためのものです。



このマザーボードには、1.5V AGPカード以外のカードを取り付けしないでください。



A7V880 Accelerated Graphics Port (AGP)

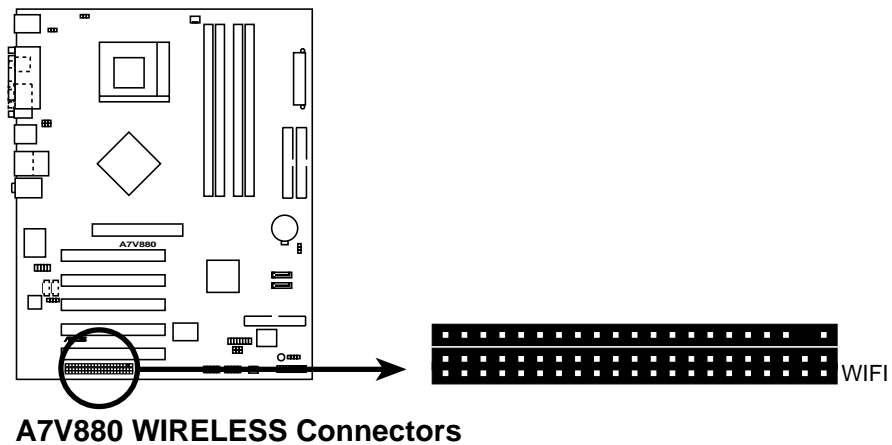


ATi 9500 または 9700 Pro Series VGAカードを取り付ける場合、最適の性能とオーバークロックの安定性を得るには、カードバージョンPN xxx-xxxxx-30以降のみを使用してください。

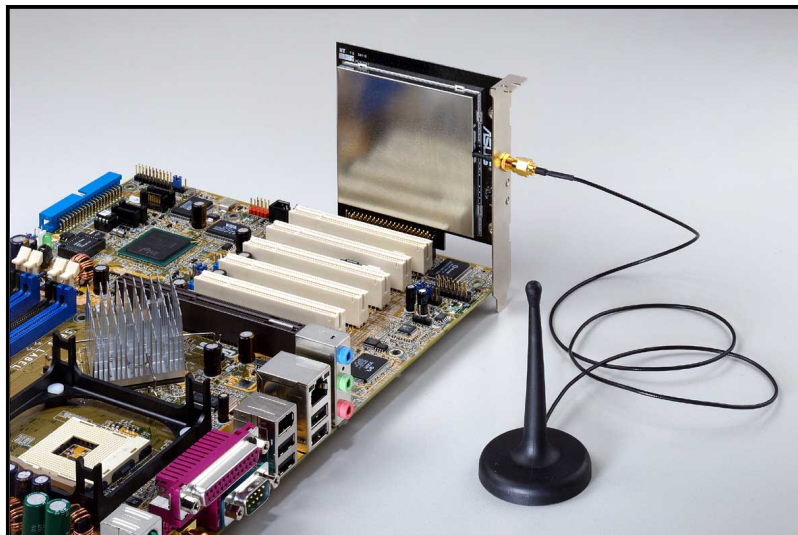
1.8.5 Wi-Fiスロット

Wi-Fi (Wireless Fidelity) スロットは利用可能なとき、ASUS Wi-Fi-b™ モジュールをサポートします。製品の更新については、ASUSのWebサイト (www.asus.com)にアクセスしてください。

Wi-Fiスロットは、2.4 GHz周波数バンドで動作するワイヤレスデバイス用の米電気電子技術者協会(IEEE) 802.11b標準に準拠しています。



ASUS WiFi-b™ 設定



- ・ PCI 5スロットとWi-Fiスロットは、同時に使用できません。
- ・ ASUS Wi-Fi-b™モジュールは別個にお買い求めください。

1.9 ジャンパ

1. RTC RAM (CLRRTC)の消去

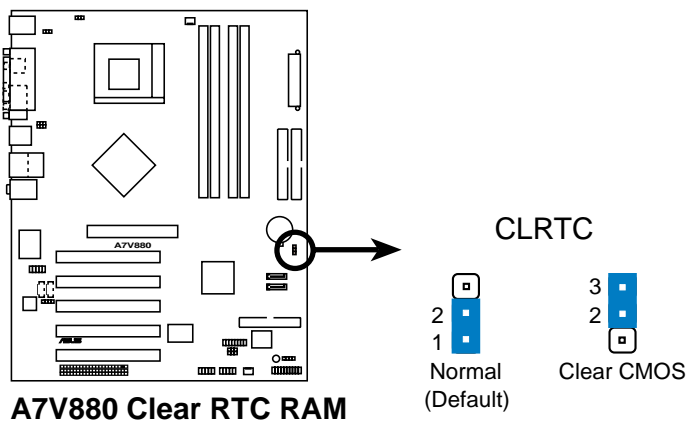
このジャンパによって、CMOSのリアルタイムクロック(RTC) RAMを消去できます。CMOS RTC RAM データを消去することによって、CMOSメモリの日、時間、システムのセットアップパラメータを消去できます。CMOSのRAMデータは、システムパスワードなどのシステムセットアップ情報を含み、オンボードのボタンセルバッテリーによって電源を供給されます。

RTC RAMを消去するには、次の手順を実行します。

1. コンピュータの電源をオフにし、電源コードを抜きます。
2. ピン1-2 (デフォルト) からピン2-3にジャンパキャップを移します。ピン2-3に約5~10秒間キャップをかぶせ、それからキャップをピン1-2に戻します。
3. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
4. ブートプロセスの間、キーを押し下げBIOSセットアップに入ったらデータを再入力します。



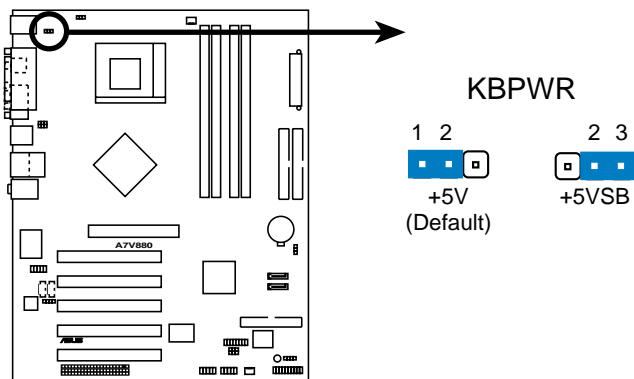
RTC RAMを消去するとき以外は、ジャンパのキャップをデフォルトの位置から取り外さないでください。キャップを取り外すと、システムのブートエラーの原因となります!



オーバークロックによりシステムがハングアップしたとき、RTCを消去する必要はありません。オーバークロックによるシステムエラーの場合は、C.P.R (CPUパラメータリコール) 機能を使用してください。システムをシャットダウンしてリブートすると、BIOSはパラメータ設定をデフォルト値に自動的にリセットできます。

2. キーボード電源 (3-ピンKBPWR)

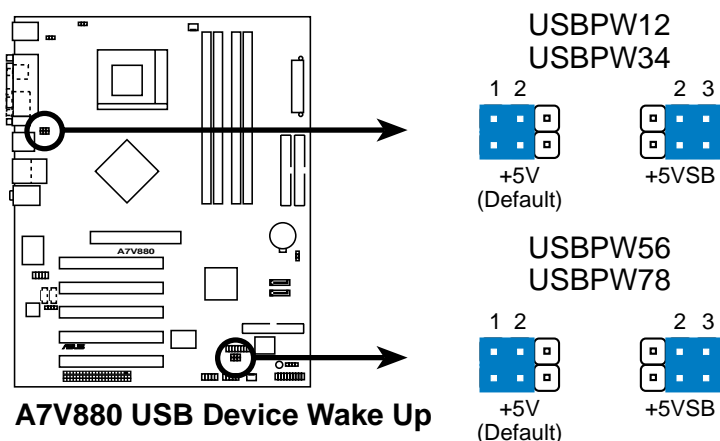
このジャンパにより、キーボードウェイクアップ機能の有効/無効を切り替えることができます。キーボードのキーを押したときにコンピュータをウェイクアップしたい場合、このジャンパをピン2-3 (+5VSB)に設定してください。この機能は、+5VSBリード上で少なくとも1Aを、またBIOSで対応する設定をサポートできるATX電源装置を必要とします。



A7V880 Keyboard Power Setting

3. USBデバイスのウェイクアップ (3ピンUSBPW12、USBPW34、USBPW56、USBPW78)

これらのジャンパを+5Vに設定すると、接続されたUSBデバイスを使用して、コンピュータをS1スリープモード（停止したCPU、リフレッシュしたDRAM、低パワーモードで実行するシステム）からウェイクアップします。+5VSBに設定すると、S3とS4スリープモード（CPUへの電源なし、遅いリフレッシュのDRAM、低下した電源モードにある電源装置）からウェイクアップします。



A7V880 USB Device Wake Up



- ・ USBデバイスのウェイクアップ機能は、各USBポートに対して+5VSBリードに500mAを提供できる電源装置を必要とします。この電源装置がなければ、システムは起動できません。
- ・ 消費される全電流は、標準状態でもスリープモードでも、電源容量(+5VSB)を超えることはできません。

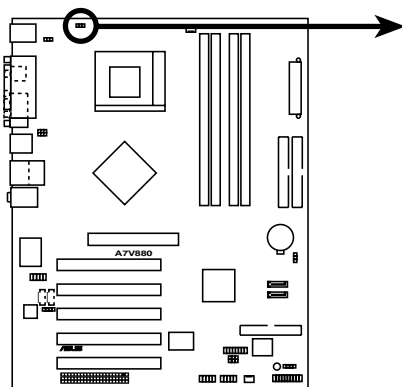
4. V_{CORE} 過電圧 (3ピン OVER_VOLT1)

使用可能になっているとき、このジャンパは1.75V から 1.95Vまでの範囲の CPU V_{CORE} が可能です。

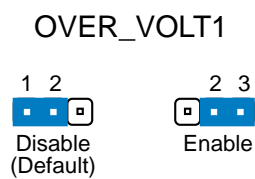
このジャンパが使用不可能になっているとき、V_{CORE} 設定は+1.65V から +1.85Vまでの範囲が可能です。BIOSセットアップを通してCPU V_{CORE} を調整できます。



コア電圧を高く設定しすぎると、CPUが破損する原因となります。デフォルトの設定（使用不可）を変更しないようにお勧めします。



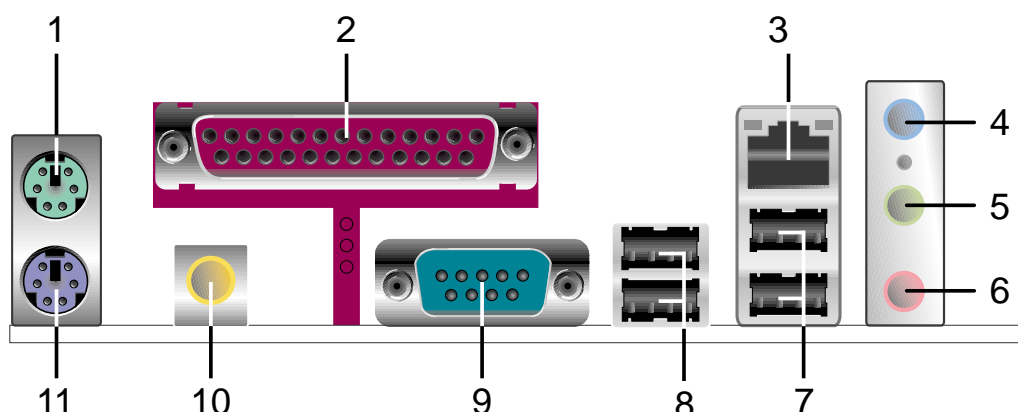
A7V880 OVER_VOLT Setting



1.10 コネクタ

本項では、マザーボードの背面パネルと内部コネクタに関する説明と図を提供します。

1.10.1 背面パネルコネクタ



1. PS/2 マウスポート。この緑の 6 ピンコネクタは PS/2 マウス用です。
2. 平行ポート。この 25 ピンポートは平行プリンタ、スキャナ、またはその他のデバイスを接続します。
3. RJ-45 ポート。このポートは、ネットワークハブを通して構内通信網 (LAN) に接続します。
4. ラインインジャック。このラインイン(ライトブルー)ジャックはテーププレーヤーまたはその他のオーディオソースを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能は低音/中央になります。
5. ラインアウトジャック。このラインアウト(ライム)ジャックはヘッドフォンまたはスピーカーを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能は前面スピーカーアウトになります。
6. マイクジャック。このマイク(ピンク)ジャックはマイクを接続します。6チャンネルモードで、このジャックの機能は背面スピーカーアウトになります。



ラインアウト、ラインイン、マイクジャックの機能は、次の表に示すように6チャンネルオーディオ構成を選択するときに変わります。

オーディオ2、4、または6チャンネル構成

	ヘッドフォン/ 2スピーカー	4スピーカー	6スピーカー
ライトブルー	ラインイン	ラインイン	低音/中央
ライム	ラインアウト	前面スピーカーアウト	前面スピーカーアウト
ピンク	マイクイン	背面スピーカーアウト	背面スピーカーアウト

- 7.USB 2.0 ポート 3 と 4。これら 2 つの 4 ピンユニバーサルシリアルバス (USB)ポートは、USB 2.0 デバイスを接続するために使用できます。
- 8.USB 2.0 ポート 1 と 2。これら 2 つの 4 ピンユニバーサルシリアルバス (USB)ポートは、USB 2.0 デバイスを接続するために使用できます。
- 9.シリアルコネクタ。この 9 ピン COM1 ポートは、シリアルデバイス用です。
- 10.S/PDIFアウトジャック。このジャックは、外付けオーディオ出力デバイスに接続します。
- 11.PS/2 キーボードポート。この紫のコネクタは、PS/2 キーボード用です。

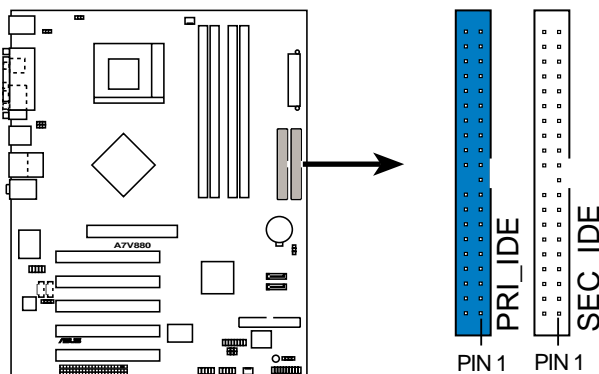
1.10.2 内部コネクタ

1. IDE コネクタ (40-1ピン PRI_IDE1, SEC_IDE1)

このコネクタは、付属の UltraATA133 IDEハードディスクリボンケーブルをサポートします。ケーブルの青いコネクタを1次（推奨）または2次コネクタに接続してから、グレーのコネクタをUltraATA133スレーブデバイス（ハードディスクドライブ）に、黒いコネクタをUltraATA133マスタデバイスに接続します。



- ・ マスターまたはスレーブモードでデバイスを設定しているとき、ハードディスクドライブのマニュアルに従ってください。
- ・ 各IDEコネクタのピン20はUltraDMAケーブルコネクタのカバーされた穴に一致するように取り除かれます。これによって、ケーブルを接続するときに方向を間違えることはなくなります。
- ・ UltraATAケーブルの青いコネクタの傍にある穴は故意に付けられたものです。

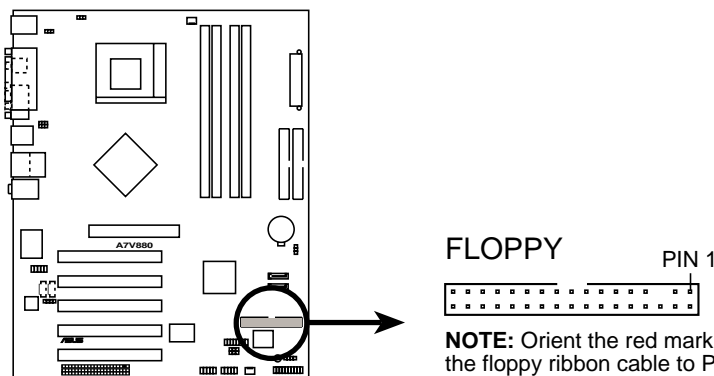


NOTE: Orient the red markings (usually zigzag) on the IDE ribbon cable to PIN 1.

A7V880 IDE Connectors

2. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンフロッピー)

このコネクタは、付属のフロッピードライブのリボンケーブルをサポートします。マザーボードに一方の端を接続したら、もう一方の端をフロッピードライブに接続してください(ピン5プラグでリボンケーブルを使用しているとき、間違えて挿入しないようにピン5は取り外されます)。



NOTE: Orient the red markings on the floppy ribbon cable to PIN 1.

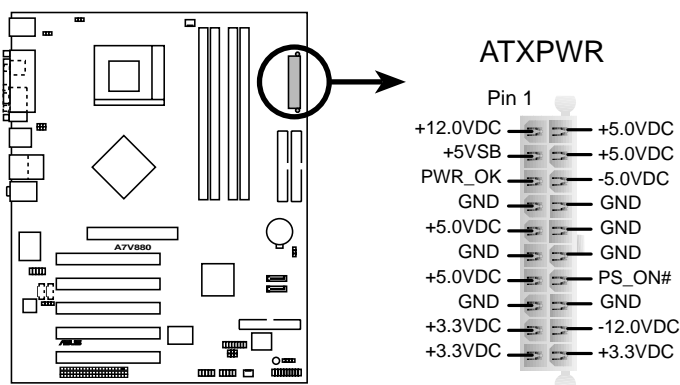
A7V880 Floppy Disk Drive Connector

3. ATX 電源コネクタ (20ピン ATXPWR)

これらのコネクタはATX 12V電源装置に接続します。電源装置から出るプラグは、一方向でのみこれらのコネクタにフィットするように設計されています。適切な方向を探し、コネクタが完全にフィットするまでしっかり押し下げます。



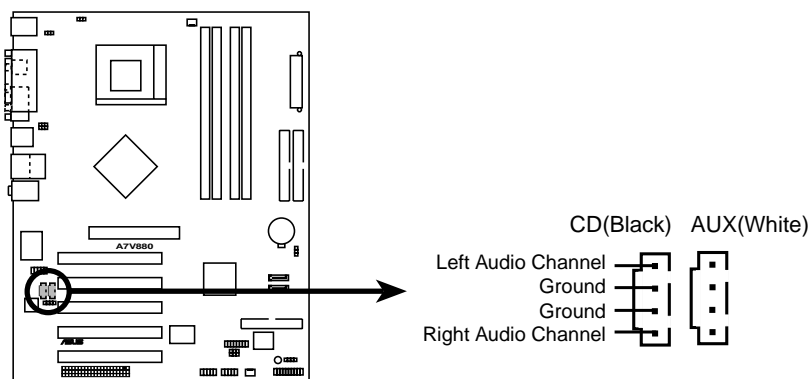
お使いのATX 12V電源装置が+12Vリードで8Aを、また+5ボルトのスタンバイリード(+5VSB)で少なくとも1Aを提供できることを確認してください。最小の推奨ワット数は230W、または完全に構成されたシステムの場合300Wです。電源装置が正しいものでないと、システムが不安定になったり電力をうまく上げられないといった状況に直面することがあります。



A7V880 ATX Power Connector

4. 内部オーディオコネクタ (4ピン CD, AUX)

これらのコネクタによって、CD-ROM、TV チューナー、MPEG カードなどのサウンドソースからステレオオーディオ入力を受信できます。



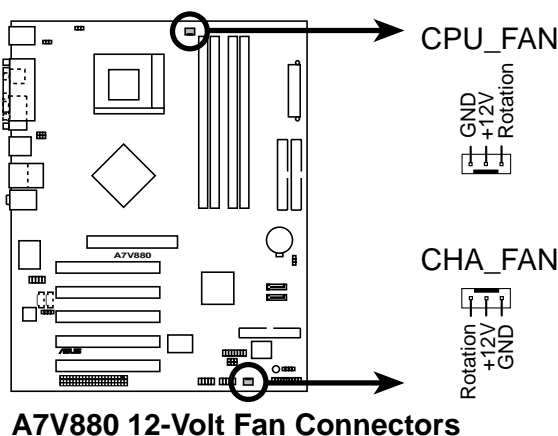
A7V880 Internal Audio Connectors

5. CPU、シャーシファンコネクタ(3ピンCPU_FAN, CHA_FAN)

ファンコネクタは350mA~740mA (8.88W 最大)の、または+12Vで合計1A~2.22A (26.64W 最大)のクーリングファンをサポートします。各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアース用ピンにぴったり合っていることを確認しながら、ファンケーブルをマザーボードのコネクタに接続してください。

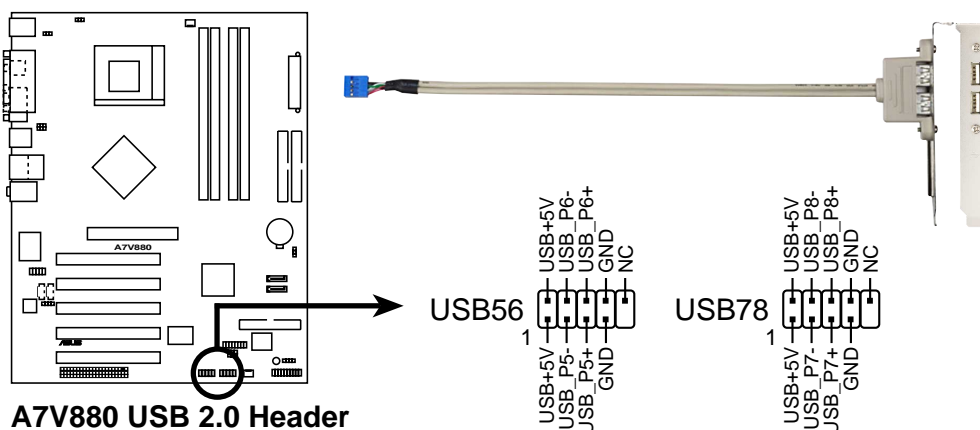


ファンケーブルをファンコネクタに接続するのを忘れないでください。システム内に十分な通気がないと、マザーボードコンポーネントが損傷することがあります。これらはジャンパではありません! ファンコネクタにジャンパキャップをかぶせないでください!



6. USBヘッダ(10-1ピンUSB56、USB78)

背面パネルのUSBポートが不適切だと、2つのUSBヘッダは追加したUSBポートを使用できません。USB 2.0モジュールのUSBケーブルをこれらのヘッダに接続してください。シャーシ前面パネルにUSBモジュールを取り付けることができます。モジュールには、高解像度カメラ、スキャナ、プリンタなどのUSB周辺機器を接続するための、USB 2.0ポートを2つ搭載しています。

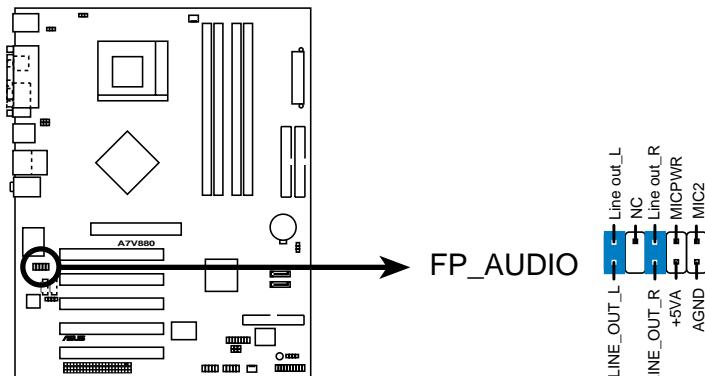


- USB 2.0モジュールは別売です。
- USB 2.0機能を使用する前に、ドライバをインストールする必要があります。

7. フロントパネルオーディオコネクタ (10-1 ピン FP_AUDIO)

これはIntelフロントパネルのオーディオケーブル用のインターフェイスで、オーディオデバイスの簡単な接続と制御を可能にしています。

デフォルトで、LINE OUT_R/BLINE_OUT_RとラベルされたピンとLINE OUT_L/BLINE_OUT_Lピンは、ジャンパキャップにより短くなっています。キャップの取り外しは、フロントパネルのオーディオケーブルを接続するときのみ、行ってください。

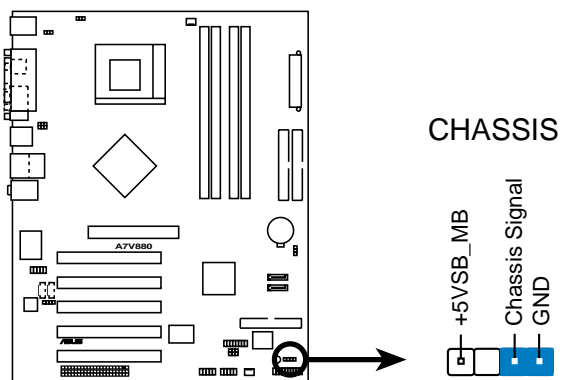


A7V880 Front Panel Audio Connector

8. シャーシ侵入コネクタ (4-1 ピンシャーシ)

このリードは侵入検出機能で設計されたシャーシ用です。これはシャーシ侵入センサーまたはマイクロスイッチなどの、外部検出メカニズムを必要とします。シャーシコンポーネントを取り外すとき、センサーは高レベルの信号を引き起こしてこのリードに送信し、シャーシ侵入イベントを記録します。

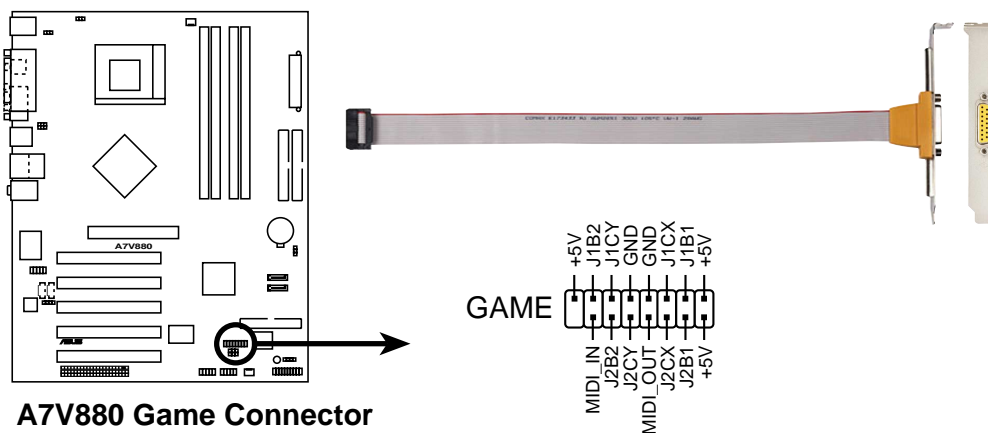
デフォルトで、「シャーシ信号」および「アース」とラベルされたピンは、ジャンパキャップによって短くなっています。シャーシ侵入検出機能を使いたい場合、ピンからジャンパキャップを取り外してください。



A7V880 Chassis Alarm Lead

9. GAME/MIDI コネクタ (16-1 ピンゲーム)

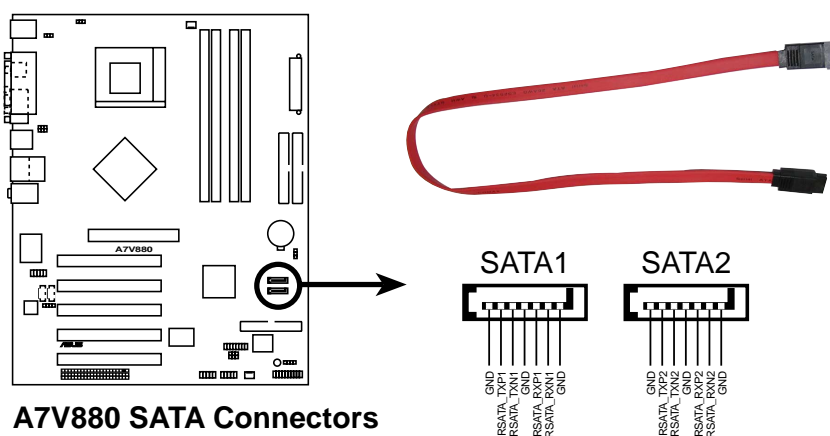
このコネクタはオプションのゲーム/MIDIモジュールをサポートします。ゲーム/MIDIケーブルをこのコネクタに接続してください。モジュールのゲーム/MIDIポートはゲームをプレーする場合にはジョイスティックやゲームパッドを、オーディオファイルを編集する場合にはMIDIデバイスを接続します。



ゲーム/MIDIモジュールは別個にお買い求めください。

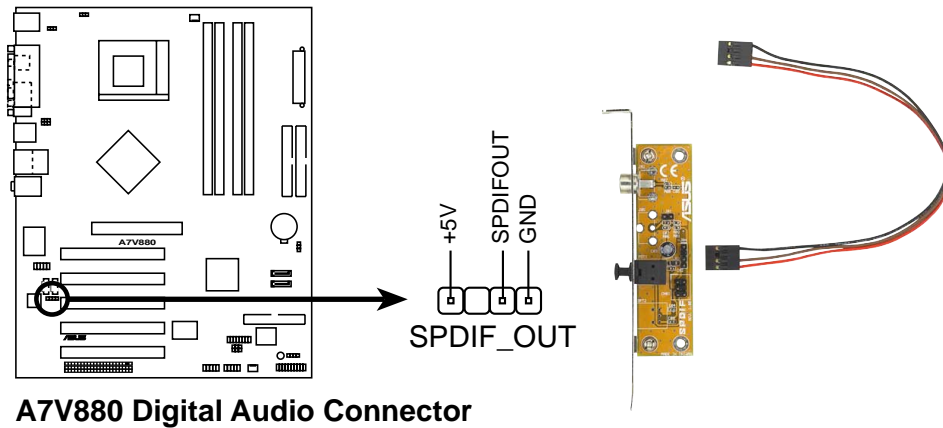
10. シリアルATA コネクタ (7ピンSATA1、SATA2)

これらの次世代コネクタは、1次内部記憶装置用に薄いシリアルATAケーブルをサポートします。現在のシリアルATAインターフェイスにより、133 MB/s (Ultra ATA/133)を組み込んだ標準の平行ATAよりも高速な、150 MB/秒までのデータ転送速度を可能にしています。



11. デジタルオーディオコネクタ (6-1ピンSPDIF_OUT)

このコネクタは、デジタルサウンド出力を可能にする、S/PDIFオーディオモジュール用です。S/PDIFオーディオケーブルの一方の端をこのコネクタに、もう一方の端をS/PDIFモジュールに接続します。



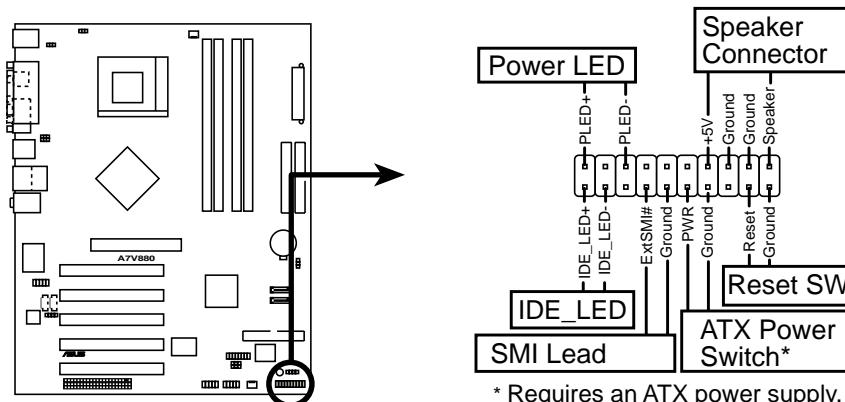
A7V880 Digital Audio Connector



S/PDIFモジュールは別個にお買い求めください。

12. システムパネルコネクタ (10-1ピン PANEL)

このコネクタは、複数のシステムフロントパネル機能を提供します。



A7V880 System Panel Connectors

- ・ システム電源 LED リード (緑の 3-1ピン PLED)
この3-1ピンコネクタはシステム電源に接続します。LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。
- ・ システム警告スピーカリード (オレンジの 4ピン SPEAKER)
この4ピンコネクタはケースにマウントされたスピーカに接続され、システムビープ音と警告を鳴らします。

- ・ スイッチリードのリセット (青い 2 ピン RESET)
この2ピンコネクタは、ケースにマウントされたリセットスイッチに接続し、システム電源をオフにすることなくシステムをリブートします。
- ・ ATX 電源スイッチ / ソフトオフスイッチリード (黄色の 2 ピン PWR)
このコネクタは、システム電源を制御するスイッチに接続します。電源スイッチを押すとシステムはBIOSまたはOS設定に従って、オンとスリープ、またはオンとソフトオフの間で切り替わります。オンモードになっている間に電源スイッチを4秒以上押すと、システムはオフになります。
- ・ システム管理割り込みSMI用端子 (2ピン SMI)
システムを手動でサスペンドモードや「グリーン」モードにする端子です。コンピュータを使用していない時の節電やパーツの延命措置に有効です。ケースのサスペンドスイッチの2端子のコネクタを接続します。
- ・ ハードディスクアクティビティリード (赤い 2 ピン IDELED)
この2ピンコネクタはHDD LEDケーブル用です。IDEコネクタのどれかに接続されているデバイスの読み込みまたは書き込みアクティビティにより、IDE LEDが点灯します。



システムパネルコネクタは色分けされているため、簡単で確実に接続することができます。説明したように、特定のコネクタの色に注意してください。

第2章

BIOSセットアップを用いたマザーボードの設定方法を説明します。BIOSパラメータの詳しい解説があります。

BIOSセットアップ

2.1 BIOSの管理と更新

次のユーティリティは、マザーボードの基本入出力システム(BIOS)セットアップを管理し更新します。

1. ASUS AFUDOS - DOS モードで起動可能なフロッピーディスクを使用して BIOSを更新します。
2. ASUS EZ Flash - POST 中にフロッピーディスクを使用して BIOSを更新します。
3. ASUS CrashFree BIOS 2 - 起動可能なフロッピーディスクまたはマザーボードサポートCDを使用して、BIOS を更新します。

これらのユーティリティの詳細については、対応する項を参照してください。

重要な注



- ・ 将来BIOSを復元する必要がある場合に備えて、オリジナルのマザーボードBIOSファイルを起動用フロッピーディスクに保存することをお勧めします。AFUDOSを使用してオリジナルのマザーボードBIOSをコピーしてください(「2.1.3 AFUDOSを使用してPCからBIOSをコピーする」を参照してください)。
- ・ ASUSのWebサイトにアクセスし、ASUS更新ユーティリティを使用してこのマザーボード用の最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。

2.1.1 起動可能なフロッピーディスクの作成

1. 次のどれかを実行して、起動可能なフロッピーディスクを作成してください。

DOS環境

1.44 MB のフロッピーディスクをドライブに挿入します。DOSプロンプトで、次を入力します:

`format A:/S` 次に<Enter>を押します。

Windows® 98SE/ME/2000/XP環境

- a. 1.44 MB のフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
- b. Windows デスクトップから、Start (スタート) をクリックし、My Computer (マイコンピュータ) を選択します。
- c. 3 1/2 Floppy Drive (3 1/2 フロッピードライブ) アイコンを選択します。
- d. メニューからFile (ファイル) をクリックし、Format (フォーマット) を選択します。Format 3 1/2 Floppy Disk (3 1/2 フロッピーディスクのフォーマット) ウィンドウが表示されます。
- e. Windows® XP を使用している場合、フォーマットオプションフィールドから Create an MS-DOS startup disk (MS-DOS起動ディスクの作成) を選択し、Start (スタート) をクリックします。

または

Windows® 98SE/ME/2000 を使用している場合、フォーマットのタイプから、Full (完全) オプションボタンを選択し、Start (スタート) をクリックします。

2. オリジナルの (または最新の) マザーボードBIOSをブート可能なフロッピーディスクにコピーします。

2.1.2 AFUDOSを使用してBIOSを更新する

DOS環境でAFUDOS.EXEユーティリティを使用してBIOSを更新します。

1. ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、マザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。BIOSファイルは、ブート可能なフロッピーディスクに保存してください。



BIOSファイル名を紙に書き留めてください。プロンプトで正確なBIOSファイル名を入力する必要があります。

2. サポートCDからBIOSファイルを含むブート可能なフロッピーディスクにAFUDOS.EXEユーティリティをコピーします。
3. フロッピーディスクからシステムをブートします。
4. DOSプロンプトで、コマンドラインを入力します。
`afudos /i<filename>`
`<filename>`は、ブート可能なフロッピーディスクにコピーした最新の（またはオリジナルの）BIOSファイルを意味します。
5. <Enter>キーを押します。画面は更新プロセスのステータスを表示します。



画面のBIOS情報は参照のためのものです。画面に表示される情報は、次の情報と異なっていることがあります。

```
A:\>afudos /iA7V880.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

BIOSの更新プロセスが完了したら、ユーティリティはDOSプロンプトに戻ります。

```
A:\>afudos /iA7V880.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading file ..... done
Erasing flash .... done
Writing flash .... 0x0008CC00 (9%)
Verifying flash .. done

A:\>
```

5. ハードディスクからシステムをリブートします。

2.1.3 AFUDOSを使用してPCからBIOSをコピーする

AFUDOS.EXE ユーティリティは、現在のシステムBIOS設定をフロッピーディスクまたはハードディスクにコピーするためにも使用されます。コピーは、システムBIOSがエラーを起こしたり破損した場合のバックアップとして使用できます。

AFUDOS.EXEを使用してPCからBIOSをコピーするには、次の手順に従います：

1. DOSプロンプトで、次のようにコマンドラインを入力します。

```
afudos /o<ファイル名>
```

<ファイル名>には、メインのファイル名として(8)文字以下の英数字と拡張子として(3)文字以下の英数字からなるファイル名を、ユーザーが自由に入れることができます。

2. <Enter>キーを押します。



画面のBIOS情報は、参照専用です。実際の画面の表示は、図に表示されるものとまったく同じでないこともあります。

メインのファイル名

拡張子

```
A:\>afudos /oMYBIOS03.rom
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading flash ..... 0x0008CC00 (9%)
```

3. ユーティリティは、デフォルトで現在のシステムBIOSをフロッピーディスクにコピーします。フロッピーディスクが書き込み禁止になっていないか、ファイルを格納するだけの十分なスペース（少なくとも600 KB）があるかを確認してください。

```
A:\>afudos /oMYBIOS03.ROM
AMI Firmware Update Utility - Version 1.10
Copyright (C) 2002 American Megatrends, Inc. All rights reserved.

Reading flash ..... done

A:\>
```

BIOSのコピープロセスが完了したら、ユーティリティはDOSプロンプトに戻ります。

2.1.4 ASUS EZフラッシュを使用して、BIOSを更新する

ASUS EZフラッシュ機能により、ディスクから長い起動プロセスを行ったりDOSベースのユーティリティを使用しなくても、BIOSを簡単に更新できます。EZフラッシュはBIOSファームウェアに組み込まれているため、電源オンセルフテスト(POST)の間に<Alt+F2>を押すだけでアクセスできます。

ASUS EZを使用してBIOSを更新するには、次の手順を実行します。

1. ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスしてマザーボードの最新のBIOSファイルをダウンロードし、そのファイル名をA7V880.ROMに変更します。BIOSファイルをフロッピーディスクに保存します。
2. システムをリブートします。
3. EZフラッシュを起動するには、POSTの間に<Alt+F2>を押して次を表示します。

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```



- ・ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、「フロッピーが見つかりません」というエラーメッセージが表示されます。
- ・フロッピーディスクに正しいBIOSファイルが見つからない場合、「A7V880.ROMが見つかりません!」というエラーメッセージが表示されます。

4. BIOSファイルを含むフロッピーディスクを挿入します。A7V880.ROM.ファイルがフロッピーディスクに見つからない場合、EZフラッシュはBIOS更新プロセスを実行し、プロセスが完了したらシステムを自動的にリブートします。



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンまたはリセットしないでください! システムのブートエラーが発生する原因となります!

```
User recovery requested. Starting BIOS recovery...
```

```
Checking for floppy...
```

```
Floppy found!
```

```
Reading file "A7V880.ROM". Completed.
```

```
Start flashing...
```

```
Flashed successfully. Rebooting.
```

2.1.5 CrashFree BIOS 2でBIOSを回復する

CrashFree BIOS 2自動回復ツールにより、マザーボードの現在のBIOSがエラーを起こしたり破損した場合、マザーボードのサポートCDから、またはBIOSファイルを含むフロッピーディスクからBIOSを自動的に回復できます。



- ・ BIOS更新プロセスを続行する前に、マザーボードに付属するサポートCDまたはマザーボードBIOSを含むフロッピーディスクを準備します。
- ・ オリジナルのマザーボードBIOSのコピーをブート可能なフロッピーディスクに保存している場合、このディスクを使用してBIOSを回復することもできます。「2.1.1 起動可能なフロッピーディスクを作成する」をご覧ください。

フロッピーディスクからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出された場合、次のメッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
```

```
Checking for floppy...
```

3. このマザーボードのオリジナルの、または最新のBIOSファイルを含むフロッピーディスクを挿入します。ASUSのWebサイトからダウンロードしたBIOSファイルが異なるファイル名を持っている場合、そのファイル名をA7V880.ROM.に変更します。A7V880.ROM.が見つかったら、BIOS更新プロセスが続行します。



フロッピーディスクのBIOSファイル名が“A7V880.ROM.”と変更されていることを確認してください。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy found!
Reading file "A7V880.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。

サポートCDからBIOSを回復するには、次の手順を実行します。

1. システムをブートします。
2. 破損したBIOSが検出されたら、次の画面メッセージが表示されます。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
```



ドライブにフロッピーディスクが見つからない場合、システムはCD-ROM.を自動的にチェックします。

3. CD-ROM.にサポートCDを設置します。サポートCDには、このマザーボードのオリジナルBIOSが含まれています。

```
Bad BIOS checksum. Starting BIOS recovery...
Checking for floppy...
Floppy not found!
Checking for CD-ROM...
CD-ROM found.
Reading file "A7V880.ROM". Completed.
Start flashing...
```



BIOSを更新している間、システムをシャットダウンしたりリセットしないでください! システムのブートエラーの原因となります!

4. BIOSの更新プロセスが完了したら、システムをリブートしてください。



回復されたBIOSは、このバイオスの最新のBIOSバージョンでないことがあります。ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、最新のBIOSファイルをダウンロードしてください。

2.2 BIOSセットアッププログラム

本マザーボードはプログラム可能なファームウェアハブをサポートしており、「2.1 BIOSの管理と更新」で述べた付属ユーティリティを使用して更新できます。

マザーボードを取り付けているとき、システムを再構成しているとき、または「セットアップの実行」を指示されたとき、BIOSセットアッププログラムを使用してください。本項では、このユーティリティを使用して構成する方法を説明します。

セットアッププログラムを使用するように指示されない場合でも、将来コンピュータの構成を変更する必要がある場合もあります。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にしたり、電源管理設定を変更する必要があるかもしれません。この場合、コンピュータがこれらの変更を認識してファームウェアハブのCMOS RAMでそれらの変更を記録できるように、BIOSセットアッププログラムを使用してシステムを再構成する必要があります。

マザーボードのファームウェアハブには、セットアップユーティリティが格納されています。コンピュータを起動するとき、システムはこのプログラムを実行する機会を提供します。電源オンセルフテスト(POST)の間、を押してセットアップユーティリティに入ってください。を押さないと、POSTはテストルーチンを続行します。

POST後にセットアップに入る場合、<Ctrl+Alt+Delete>を押して、システムシャシのリセットボタンを押して、システムを再起動してください。システムの電源をオフにしてから再びオンにすることも、再起動できます。これは、最初の2つが失敗した場合に、最後の選択肢としてのみ行ってください。

セットアッププログラムは、できるだけ使いやすいように設計されています。これは、メニュー制御のプログラムです。これによって、さまざまなサブメニューをスクロールし、ナビゲーションキーを使用して利用可能なオプションから選択できることになります。



BIOS設定を変更した後、システムが不安定になった場合、デフォルトの設定をロードしてシステムの安定性を確認してください。終了メニューの下で、デフォルト設定のロードを選択します。「2.7 終了メニュー」をご覧ください。



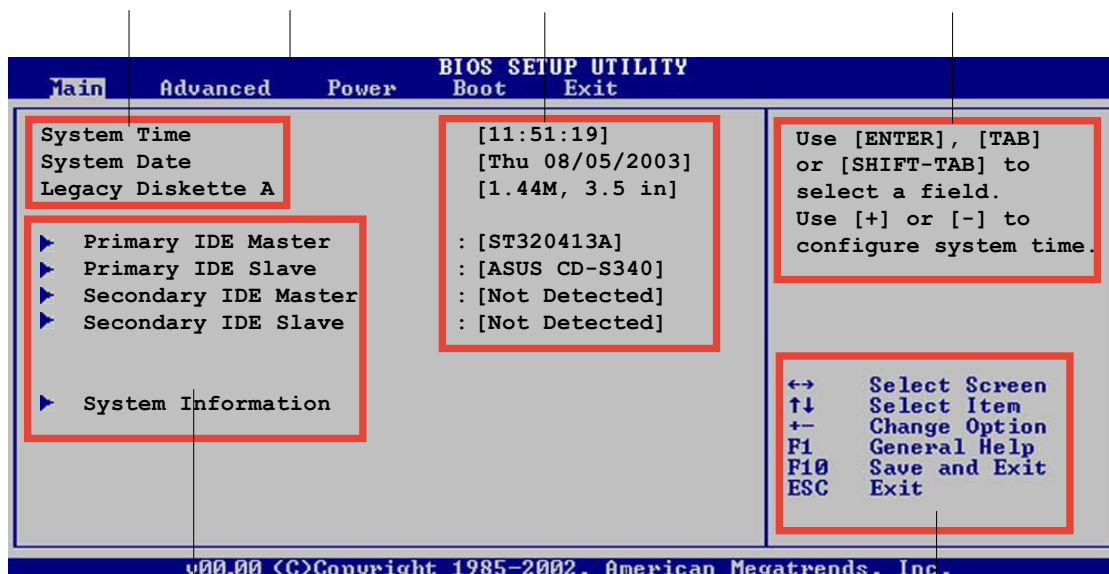
本章で示したBIOSセットアップ画面は、参照のためのものです。画面の表示と全く同じでないこともあります。

ASUSのWebサイト(www.asus.com)にアクセスして、最新の製品とBIOS情報をダウンロードしてください。

2.2.1 BIOSメニュー画面

メニューアイテム メニューバー 構成フィールド

全般ヘルプ



サブメニューバー

ナビゲーションキー

2.2.2 メニューバー

画面上部のメニューには、次のメインアイテムがあります。

- | | |
|-----|--------------------------|
| メイン | 基本構成システムを変更 |
| 詳細 | システムの詳細設定を変更 |
| 電源 | 拡張電源管理(APM)構成を変更 |
| ブート | システムブート構成を変更 |
| 終了 | 終了オプションを選択し、デフォルトの設定をロード |

メニューバーのアイテムを選択するには、希望するアイテムが強調表示されるまで、キーボードの右または左矢印キーを押します。

2.2.3 ナビゲーションキー

メニュー画面の右下隅にはその特定メニューのナビゲーションキーがあります。ナビゲーションキーを使用すると、メニューのアイテムを選択して設定を変更できます。

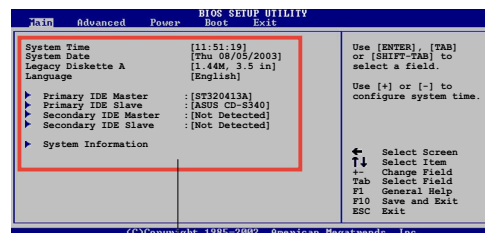


一部のナビゲーションキーは、画面ごとに異なっています。

2.2.4 メニューアイテム

メニューバーの強調表示されたアイテムは、そのメニューに特定のアイテムを表示します。例えば、メインを選択すると、メインのメニューアイテムが表示されます。

メニューバーのその他のアイテム（詳細、電源、ブート、終了）には、それぞれのメニューアイテムがあります。



メインメニュー
アイテム

2.2.5 サブメニューアイテム

全てのメニュー画面でサブメニューのあるアイテムは、アイテムの前の黒三角で区別されています。サブメニューを表示するには、アイテムを選択して<Enter>を押します。

2.2.6 構成フィールド

これらのフィールドは、メニューアイテムの値を表示します。アイテムがユーザー構成可能である場合、アイテムの反対のフィールドの値を変更できます。ユーザー構成可能でないアイテムは、変更することができません。

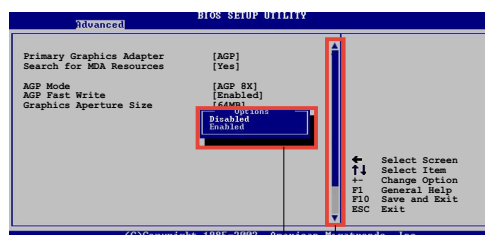
構成可能なフィールドはカッコで囲まれ、選択すると強調表示されます。フィールドの値を変更するには、その値を選択してから<Enter>を押し、オプションの一覧を表示します。「2.2.7 ポップアップウィンドウ」を参照してください。

2.2.7 ポップアップウィンドウ

メニューアイテムを選択してからEnterを押すと、そのアイテムの構成オプションの付いたポップアップウィンドウが表示されます。

2.2.8 スクロールバー

スクロールバーは、画面に収まりきらないアイテムがあるとき、メニュー画面の右側に表示されます。上/下矢印キーまたはPageUp/PageDown キーを押すと、画面に他のアイテムが表示されます。



ポップアップ
ウィンドウ

スクロール
バー

2.2.9 全般ヘルプ

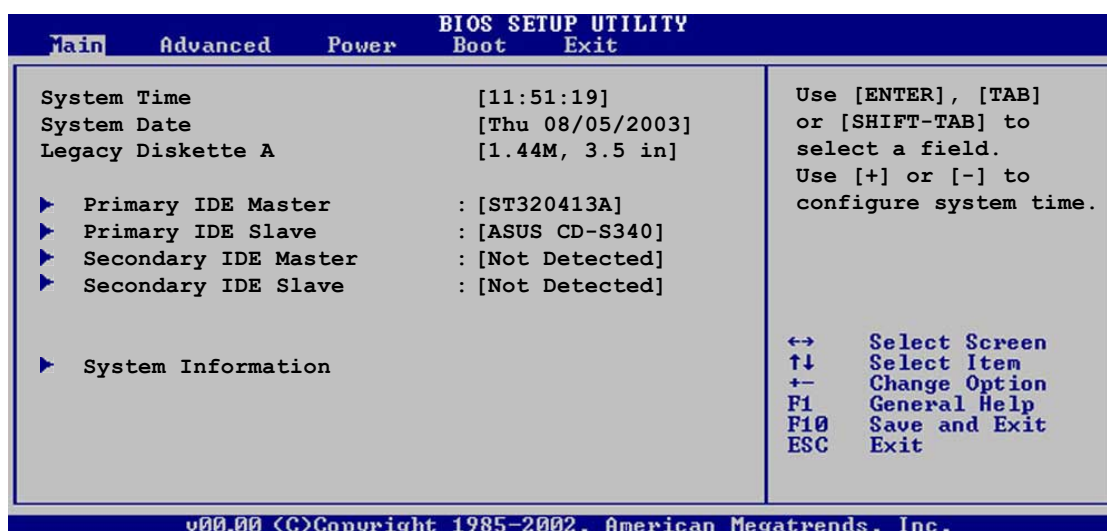
メニュー画面の右上隅には、選択したアイテムの簡単な説明が表示されます。

2.3 メインメニュー

BIOSセットアッププログラムに入るとき、メインのメニュー画面が表示され、基本システム情報の概要が提供されます。



メニュー画面アイテムの情報およびその情報をナビゲートする方法については、「2.2.1 BIOSメニュー画面」を参照してください。



2.3.1 System Time [xx:xx:xxxx]

このアイテムによって、システム時間を設定できます。

2.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

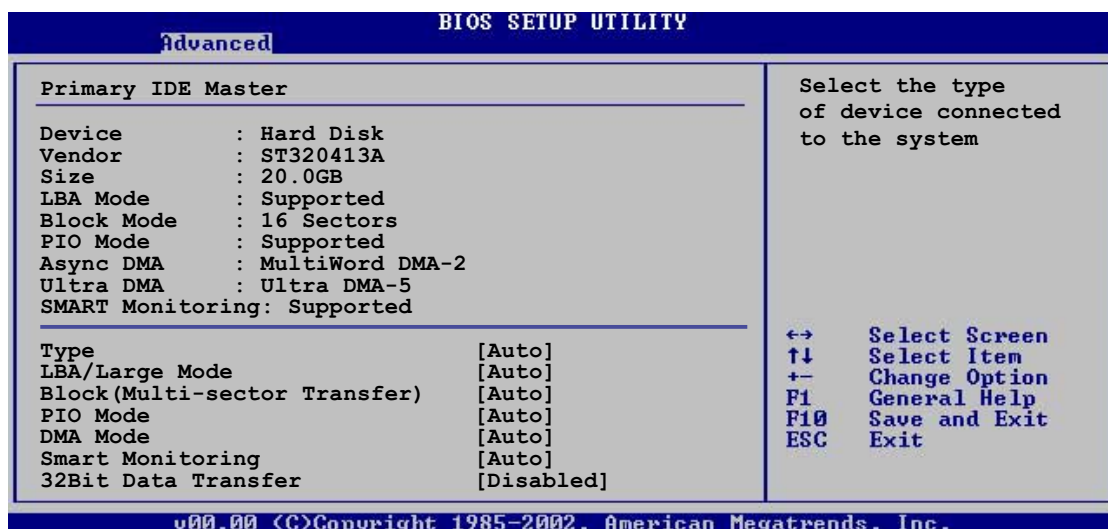
このアイテムによって、システムの日付を設定できます。

2.3.3 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

取り付けられているフロッピードライブのタイプを設定します。構成オプション:
[無効] [360K, 5.25 in.] [1.2M, 5.25 in.] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.]
[2.88M, 3.5 in.]

2.3.4 1次および2次IDE マスタ/スレーブ

セットアップに入っている間、BIOSはIDEデバイスの存在を自動検出します。それぞれのIDEデバイスに対して個々のサブメニューがあります。デバイスのアイテムを選択してから<Enter>を押すと、IDEデバイス情報が表示されます。



淡色表示されたアイテム（デバイス、ベンダー、サイズ、LBAモード、PIOモード、Async DMA、Ultra DMA、SMART監視）の反対側にある値はBIOSによって自動検出され、ユーザーの側で構成することはできません。これらのアイテムは、IDEがシステムに取付けられていなければ、N/Aを表示します。

Type [Auto]

IDEドライブのタイプを選択します。CD-ROMドライブを特別に構成しているとき、Autoを設定することによって、適切なIDEデバイスタイプを自動選択することができます。お使いのデバイスがZIP、LS-120、MOドライブのどれかである場合、ARMD (ATAPIリムーバブルメディアデバイス)を選択してください。構成オプション: [Not Installed] [Auto] [CDROM] [ARMD]

LBA/Large Mode [Auto]

LBAモードの有効/無効を切り替えます。デバイスがこのモードをサポートしていればLBAモードを自動有効に設定します。また、デバイスがLBAモードで前もってフォーマットされていない場合、無効に設定します。構成オプション: [Disabled] [Auto]

Block (Multi-sector Transfer) [Auto]

マルチセクタ転送の有効/無効を切り替えます。自動に設定されているとき、デバイスからのまたはデバイスへのデータ転送は、デバイスがマルチセクタ機能をサポートしている場合、一度で複数のセクタを発生します。無効に設定されている場合、デバイスからのまたはデバイスへのデータ転送は、一度で1つのセクタを発生します。構成オプション: [Disabled] [Auto]

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。構成オプション: [Auto] [0] [1] [2] [3] [4]

DMA Mode [Auto]

DMAモードを選択します。構成オプション: [Auto] [SWDMA0] [SWDMA1] [SWDMA2] [MWDMA0] [MWDMA1] [MWDMA2] [UDMA0] [UDMA1] [UDMA2] [UDMA3] [UDMA4] [UDMA5]

SMART Monitoring [Auto]

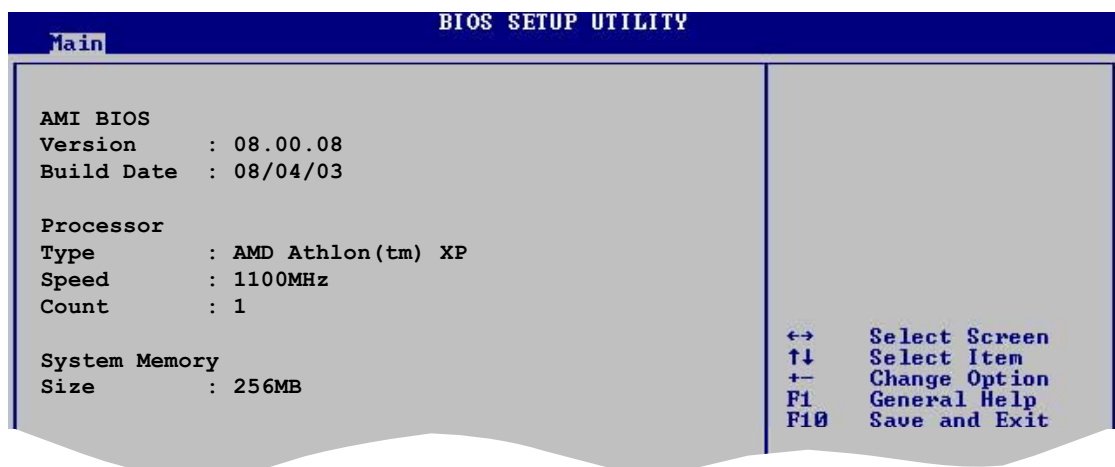
Smartモニタリング、分析、リポーティングテクノロジーを設定します。構成オプション: [Auto] [Disabled] [Enabled]

32Bit Data Transfer [Disabled]

32ビットデータ転送の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

2.3.5 システム情報

このメニューは、全般的システム仕様の概観を提供します。メニューのアイテムはBIOSにより自動検出されます。



AMI BIOS

このアイテムは、自動検出されたBIOS情報を表示します。

Processor

このアイテムは、自動検出されたCPU仕様を表示します。

System Memory

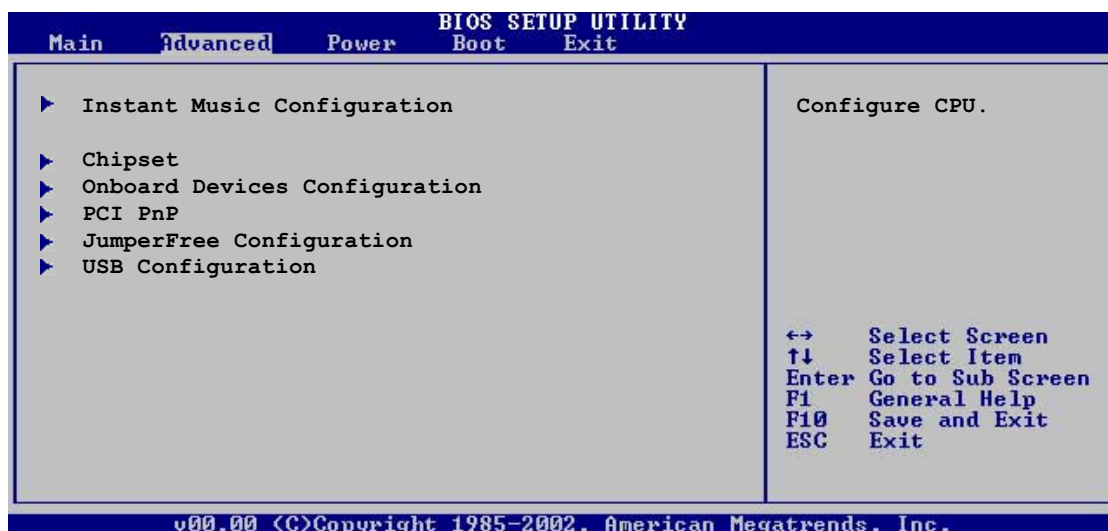
このアイテムは、自動検出されたシステムメモリを表示します。

2.4 詳細メニュー

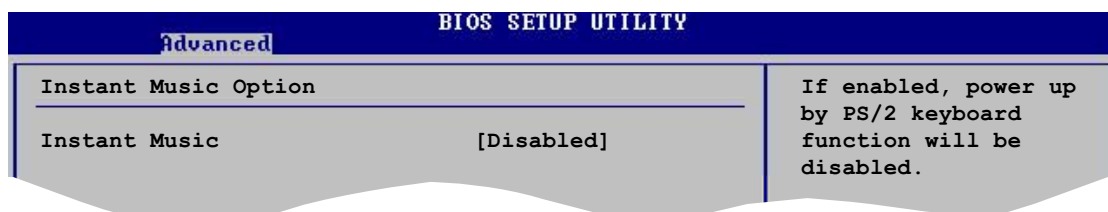
詳細メニューアイテムにより、CPUおよびその他のシステムデバイス用の設定を変更できます。



詳細メニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。フィールド値を間違えると、システムが誤作動する原因となります。



2.4.1 インスタントミュージック構成



Instant Music [Disabled]

BIOSでインスタントミュージック機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



インスタントミュージックが有効になっていると、PS/2 キーボードの電源アップ機能は自動的に無効になります。3-5ページをご覧ください。

Instant Music CD-ROM Drive [IDE Secondary Master]

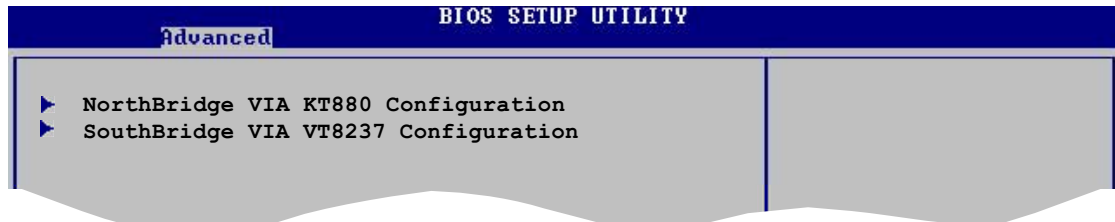
インスタントミュージックCD再生に対して使用するCD-ROMドライブを選択できます。構成オプション: [IDE Primary Master] [IDE Primary Slave] [IDE Secondary Master] [IDE Secondary Slave]



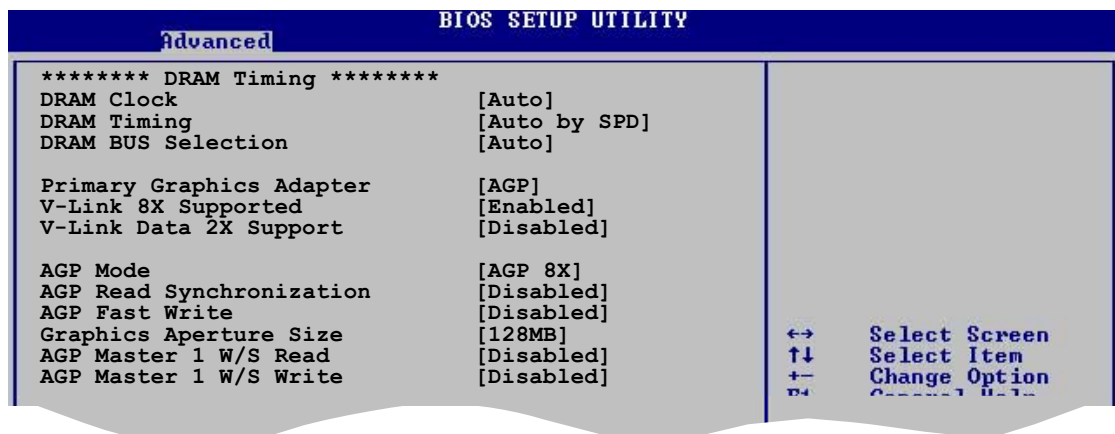
上のアイテムは、インスタントミュージックアイテムを有効にしている場合のみ表示されます。

2.4.2 チップセット

チップセットメニューでは、詳細なチップセット設定の変更が可能です。アイテムを選択してから<Enter>を押すと、サブメニューが表示されます。



ノースブリッジ VIA KT880構成



DRAM Clock [Auto]

DRAM クロックを設定します。

構成オプション: [Auto] [266 MHz] [333 MHz] [400 MHz]

DRAM Timing [Auto By SPD]

DRAM SPD (シリアルプレゼンスデテクト)に従って、DRAM タイミングパラメータを設定します。マニュアルに設定しているとき、DRAM サブアイテムを通してDRAM タイミングパラメータを手動で設定できます。

構成オプション: [Manual] [Auto By SPD]



次のサブアイテムは、アイテムDRAM タイミングがManual (手動) に設定されているときに表示されます。

SDRAM CAS# Latency [2.5]

SDRAMリードコマンドとデータが実際に使用できるようになるまでの待ち時間をコントロールします。構成オプション: [1.5] [2.0] [2.5] [3.0]

SDRAM Bank Interleave [Disabled]

このアイテムは、SDRAM リードコマンドとデータが実際に使用できるようになるまでの待ち時間をコントロールします。

構成オプション: [Disabled] [2-Way] [4-Way]

Precharge to Active(Trp) [4T]

Precharge(プリチャージ)を Active(アクティブ) タイミングに設定します。

構成オプション: [2T] [3T] [4T] [5T]

Active to Precharge(Tras) [9T]

Active (アクティブ) を Precharge (プリチャージ) タイミングに設定します。構成オプション: [6T] [7T] [8T] [9T]

Active to CMD(Trcd) [4T]

Active (アクティブ) を CMD タイミングに設定します。

構成オプション: [2T] [3T] [4T] [5T]

REF to ACT/REF to REF (Trcfc) [15T]

REF を ACT/REF 対 REF タイミングに設定します。

構成オプション: [12T] [13T] [14T] [15T]

DRAM Command Rate [2T Command]

DRAM Command Rate (DRAM コマンドレート) タイミングを設定します。構成オプション: [2T Command] [1T Command]

DRAM Bus Selection [Auto]

DRAM Bus Selection (バス選択) チャンネルを設定します。

構成オプション: [Auto] [Single Channel] [Dual Channel]

Primary Graphics Adapter [AGP]

このアイテムは、ビデオカードを検索している間にPCIバススキャン順序を切り替えます。これにより、複数のビデオコントローラの場合プライマリVGAのタイプを選択できます。構成オプション: [PCI] [AGP]

V-Link 8X Supported [Enabled]

ノースブリッジとサウスブリッジ間のバスリンクの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

V-Link Data 2X Support [Disabled]

V-Link Data 2X サポートの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

AGP Mode [AGP 8X]

AGPグラフィックスカードのデータスループットを設定します。本マザーボードはAGP 8X インターフェイスをサポートして、2.12GB秒でビデオデータを転送します。デフォルトと構成オプションは、取り付けたAGPカードの速度によって異なります。AGP 8Xグラフィックスカードを取り付けた場合、構成オプションは次のようになります:[8X] [4X]。またはAGP 4Xグラフィックスカードを取り付けた場合、構成オプションは次のようになります:[4X] [2X]。

AGP Read Synchronization [Disabled]

AGP同期化の有効/無効を切り替えます。構成オプション:[Disabled] [Enabled]

AGP Fast Write [Disabled]

このアイテムは、AGP高速書き込み機能の有効/無効を切り替えます。構成オプション:[Disabled] [Enabled]

Graphics Aperture Size [128MB]

AGPグラフィックデータのマップされたメモリサイズを選択します。
構成オプション:[32MB] [64MB] [128MB] [256MB]

AGP Master 1 W/S Read [Disabled]

AGP Master 1 W/S Read (読み込み) 機能の有効/無効を切り替えます。
構成オプション:[Disabled] [Enabled]

AGP Master 1 W/S Write [Disabled]

AGP Master 1 W/S Write (書き込み) 機能の有効/無効を切り替えます。
構成オプション:[Disabled] [Enabled]

サウスブリッジ VIA VT8237 構成

Advanced		BIOS SETUP UTILITY	
MPS Revision	[1.4]		
PCI Delay Transaction	[Enabled]		
Onboard Giga LAN	[Enabled]		
Onboard Giga LAN Boot ROM	[Disabled]		
VIA RAID SATA BOOTROM	[Enabled]		
OnBoard AC'97 Audio	[Enabled]		

MPS Revision [1.4]

このアイテムは、MPSリビジョン値を設定します。構成オプション:[1.1] [1.4]

PCI Delay Transaction [Enabled]

このアイテムは、PCI遅延処理機能の有効/無効を切り替えます。構成オプション:[Disabled] [Enabled]

OnBoard Giga LAN [Enabled]

オンボードGigabit LANコントローラの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

OnBoard Giga LAN Boot ROM [Disabled]

オンボード Gigabit LAN boot ROM の有効/無効を切り替えます。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

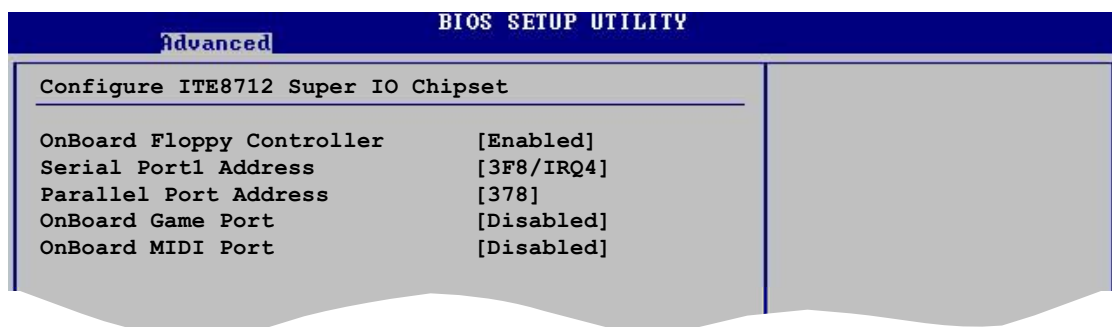
VIA SATA BOOTROM [Enabled]

VIA Serial ATA boot ROM の有効/無効を切り替えます。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

OnBoard AC'97 Audio [Enabled]

オンボードAC'7 Audio (オーディオ) コントローラの有効/無効を切り替えます。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

2.4.3 オンボードデバイス構成



OnBoard Floppy Controller [Enabled]

オンボードフロッピーコントローラの有効/無効を切り替えます。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Serial Port1 Address [3F8/IRQ4]

シリアルPort1ベースアドレスを選択できます。
構成オプション: [Disabled] [3F8/IRQ4] [3E8/IRQ4] [2E8/IRQ3]

Parallel Port Address [378]

パラレルポートベースアドレスを選択できます。構成オプション: [Disabled] [378] [278] [3BC]

Parallel Port Mode [Normal]

パラレルポートモードを選択できます。このアイテムは、パラレルポートアドレスがDisabled (無効) に設定されていないときのみ表示されます。構成オプション: [Normal] [EPP] [ECP] [EPP+ECP]

EPP Version [1.9]

パラレルポートEPPバージョンを選択できます。このアイテムは、パラレルポートモードがEPPに設定されている場合のみ、表示されます。構成オプション: [1.9] [1.7]

ECP Mode DMA Channel [DMA3]

パラレルポートECP DMAチャンネルを選択できます。このアイテムは、パラレルポートモードがECPに設定されている場合のみ、表示されます。構成オプション: [DMA0] [DMA1] [DMA3]

Parallel Port IRQ [IRQ7]

構成オプション: [IRQ5] [IRQ7]

Onboard Game Port [Disabled]

このアイテムは、オンボードゲームポートの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Onboard MIDI Port [Disabled]

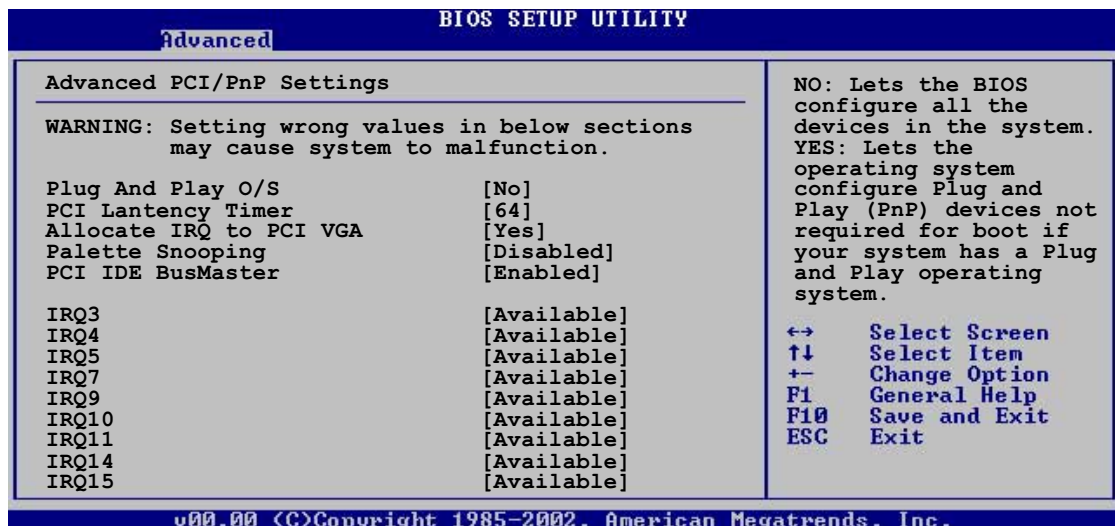
このアイテムは、オンボードMIDIポートの有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [300] [330]

2.4.4 PCI PnP

PCI PnPメニューアイテムによって、PCI/PnPデバイスの詳細設定を変更できません。メニューには、PCI/PnPまたは古いタイプのISAデバイスに対してはIRQとDMAチャンネルリソースの設定が、また古いタイプのISAデバイスに対してはメモリサイズブロックの設定が含まれます。



PCI PnPメニューアイテムの設定を変更するときは、注意してください。フィールド値を間違えると、システムが誤作動を起こす原因となります。



Plug and Play O/S [No]

[No]に設定されていると、BIOSはシステムの全てのデバイスを構成します。
[Yes]に設定されているときにプラグアンドプレイオペレーティングシステムをインストールしていると、オペレーティングシステムはブートに必要なでないプラグアンドプレイデバイスを構成します。構成オプション: [No] [Yes]

PCI Latency Timer [64]

PCIデバイスレイテンシタイマレジスタに対して、PCIクロックの値を選択できます。構成オプション: [32] [64] [96] [128] [160] [192] [224] [248]

Allocate IRQ to PCI VGA [Yes]

[Yes]に設定されていると、BIOSはPCI VGAカードがIRQを要求している場合、カードにIRQを割り当てます。[No]に設定されていると、BIOSはたとえ要求されても、PCI VGA カードにIRQを割り当てません。構成オプション: [No] [Yes]

Palette Snooping [Disabled]

[Enabled]に設定されていると、パレットスヌープ機能はISAグラフィックスデバイスが正しく機能するように、このデバイスがシステムに取り付けられていることをPCIデバイスに通知します。[Disabled]に設定されていると、この機能を無効にします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

PCI IDE BusMaster [Enabled]

BIOSは、IDEデバイスに読み込み/書き込みを行っているとき、バスマスタリングを使用できます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

IRQ xx [Available]

[Available]に設定されていると、特定のIRQはPCI/PnPデバイスを自由に使用できます。[Reserved]に設定されていると、IRQは古いタイプのISAデバイス用に割り当てられます。構成オプション: [Available] [Reserved]

2.4.5 ジャンプフリー構成

Advanced		BIOS SETUP UTILITY	
Configure System Frequency/Voltage			
CPU Multiple		[Auto]	
AI Overclock Tuner		[Standard]	
Spread Spectrum		[Enable]	
Asynchronous Frequency		[Disable]	
VCORE Voltage		[Auto]	
DDR Reference Voltage		[Auto]	
AGP Reference Voltage		[Auto]	

CPU Multiple [Auto]

AMD K7 CPU周波数多重オプションを選択します。

構成オプション: [Auto] [5.0x] [5.5x] [6.0x] [6.5x] [7.0x] [7.5x] [8.0x] [8.5x] [9.0x] [9.5x] [10.0x] [10.5x] [11.0x] [11.5x] [12.0x] [12.5x] [13.0x] [13.5x] [14.0x] [15.0x] [16.0x] [16.5x] [17.0x] [18.0x] [19.0x] [20.0x] [21.0x] [22.5x]

AI Overclock Tuner [Standard]

希望する内部CPU周波数を達成するために、CPUオーバークロックオプションを選択できるようにします。現在のオーバークロックオプションのどれかを選択してください。構成オプション: [Manual] [Standard] [Overclock 5%] [Overclock 10%] [Overclock 20%] [Overclock 30%]

CPU Frequency [100]

CPU 周波数を手動で設定します。構成オプションは、取り付けられているプロセッサによって異なります。プラス <+> またはマイナス <-> キーを使用して値を調整します。このアイテムは、AI Overclock Tuner(オーバークロックチューナー)アイテムが Manual (手動) に設定されているときのみ表示されます。



きわめて高いCPU周波数を選択すると、システムが不安定になります! この場合、デフォルト設定に戻してください。

Spread Spectrum [Enable]

スペクトラム拡散の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disable] [Enable]

Asynchronous Frequency [Disable]

非同期周波数の有効/無効を切り替えます。構成オプション: [Disable] [Enable]

VCORE Voltage [Auto]

VCore 電圧を設定します。構成オプション: [Auto] [1.65V] [1.70V] [1.75V] [1.80V] [1.85V]

DDR Reference Voltage [Auto]

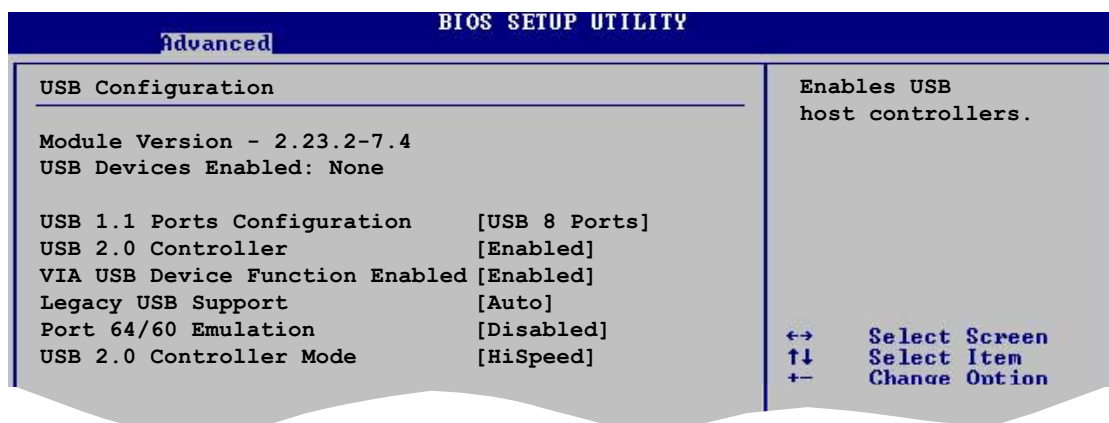
DDR 動作電圧のリストから自動的に検出または選択します。
構成オプション: [Auto] [2.55V] [2.65V] [2.75V] [2.85V]

AGP Reference Voltage [Auto]

AGP 電圧設定を調整します。
構成オプション: [Auto] [1.5V] [1.6V] [1.7V] [1.8V]

2.4.6 USB 構成

このメニューのアイテムによって、USB関連機能を変更できます。アイテムを選択してから<Enter>を押すと、構成オプションが表示されます。



モジュールバージョンとUSBデバイスEnabledアイテムは、自動検出された値を表示します。USBデバイスが検出されると、アイテムは「なし」を表示しません。

USB 1.1 Ports Configuration [USB 8 Ports]

アクティブにするUSBポートの数を設定します。
構成オプション: [Disabled] [USB 2 Ports] [USB 4 Ports] [USB 6 Ports] [USB 8 Ports]

USB 2.0 Controller [Enabled]

USB 2.0コントローラの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

VIA USB Device Function Enabled [Enabled]

VIA USB 2.0 Device (デバイス) 機能の有効/無効を切り替えます。
構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Legacy USB Support [Auto]

古いタイプのUSBデバイスのサポートの有効/無効の切り替えが可能です。自動に設定すると、システムは起動時にUSBデバイスの存在を検出できます。検出されると、USBコントローラレガシーモードは有効になります。USBデバイスが検出されないと、古いタイプのUSBサポートは無効になります。構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

Port 64/60 Emulation [Disabled]

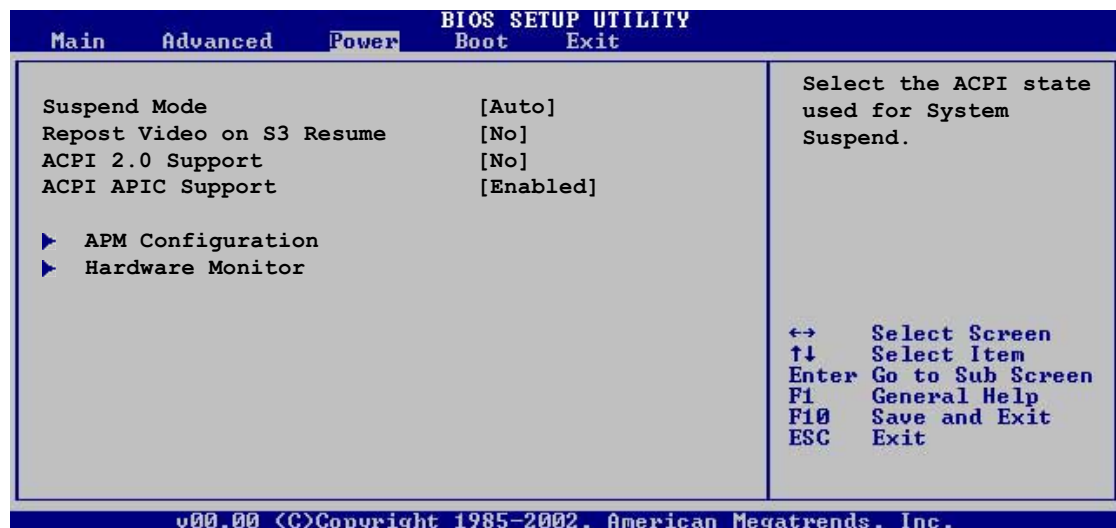
I/Oポート 60h/64h エミュレーションのサポートの有効/無効を切り替えます。このアイテムを有効にすると、非USB対応オペレーティングシステムのUSBキーボードをサポートします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

USB 2.0 Controller Mode [HiSpeed]

HiSpeed (480 Mbps)でまたはFull Speed (12 Mbps)で、USB 2.0コントローラを構成できます。構成オプション: [HiSpeed] [Full Speed]

2.5 電源メニュー

電源メニューアイテムによって、アドバンストパワーマネージメント(APM)の設定を変更できます。アイテムを選択してから<Enter>を押すと、構成オプションが表示されます。



2.5.1 Suspend Mode [Auto]

システムサスペンド用に使用するACPI状態を選択できます。構成オプション: [S1 (POS) Only] [S3 Only] [Auto]

2.5.2 Repost Video on S3 Resume [No]

VGA BIOS POST on S3/STR レジュームを呼び起こすかどうか決定します。構成オプション: [No] [Yes]

2.5.3 ACPI 2.0 Support [No]

ACPI 2.0仕様に対してさらに表を追加できます。構成オプション: [No] [Yes]

2.5.4 ACPI APIC Support [Enabled]

ASICでACPIサポートの有効/無効を切り替えることができます。有効に設定されていると、ACPI APIC 表ポインタはRSDTポインタに含まれます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

2.5.5 APM 構成

BIOS SETUP UTILITY	
Power	
Power Management/APM	[Enabled]
Video Power Down Mode	[Suspend]
Hard Disk Power Down Mode	[Suspend]
Power Button Mode	[On/Off]
Restore on AC Power Loss	[Power Off]
Wake Up/Power On By Ring	[Disabled]
Power On PCI Devices	[Disabled]
Power On RTC Alarm	[Disabled]
Power On PS/2 Mouse	[Disabled]
Power On PS/2 Keyboard	[Disabled]

←→ Select Screen
↑↓ Select Item
+- Change Option
F1 General Help
F10 Save and Exit
ESC Exit

Power Management/APM [Enabled]

アドバンスドパワーマネジメント(APM)機能の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



次のアイテムは、電源管理/APMアイテムが[Enabled]に設定されているときのみ表示されます。

Video Power Down Mode [Suspend]

ビデオのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション: [Disabled] [Suspend]

Hard Disk Power Down Mode [Suspend]

ハードディスクのパワーダウンモードを選択できます。構成オプション: [Disabled] [Suspend]

Power Button Mode [On/Off]

電源ボタンを押したとき、システムはオン/オフモードにまたはサスペンドモードに入ることができます。構成オプション: [On/Off] [Suspend]

Restore on AC Power Loss [Power Off]

電源オフに設定されていると、AC電源損失の後システムはオフ状態に入ります。電源オンに設定されていると、AC電源損失の後システムはオン状態に入ります。最後の状態に設定されていると、AC電源損失の後のシステムの状態には関わらず、システムはオンまたはオフ状態に入ります。構成オプション: [Power Off] [Power On] [Last State]

Wake Up/ Power On By Ring [Disabled]

コンピュータがソフトオフモードになっている間に外部モデムが電話を受けたとき、コンピュータの電源をいれる設定の[Enabled] / [Disabled]を切り替えます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



コンピュータとアプリケーションが完全に実行されるまで、コンピュータはデータの送受信を行うことができません。従って、一度で接続を行うことはできません。コンピュータがオフになっている間に、外部モデムをオフにしてからオンにすると、初期化ストリングによりシステムの電源はオンになります。

Power On By PCI Devices [Disabled]

PCIデバイス機能のパワーの有効/無効を切り換えます。この機能は、+5VSBリードで少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

呼び起こしイベントを生成するために、RTCの有効/無効を切り替えることができます。このアイテムが有効に設定されていると、アイテムRTCアラーム日、RTCアラーム時間、RTCアラーム分、RTCアラーム秒が設定値で表示されます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Mouse [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、このパラメータにより、PS/2マウスを使用してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5VSBリードで少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

キーボードのウェイクアップ機能を設定したり無効にします。この機能は、+5VSBリード線に少なくとも1Aを提供するATX電源装置を必要とします。構成オプション: [Disabled] [Space Bar] [Ctrl-Esc] [Power Key] [AnyKey]

2.5.6 ハードウェアモニタ

BIOS SETUP UTILITY	
Power	
Hardware Monitor	CPU Temperature
MB Temperature [33°C/91°F]	
CPU Temperature [40.5°C/102.5°F]	
CPU Fan Speed [3260RPM]	
Chassis Fan Speed [N/A]	
VCORE Voltage [1.504V]	
3.3V Voltage [3.360V]	
5V Voltage [5.160V]	
12V Voltage [11.328V]	
Smart Q-Fan Function [Disabled]	
	←→ Select Screen
	↑↓ Select Item
	+− Change Option
	F1 General Help
	F10 Save and Exit
	ESC Exit

MB Temperature [xxx °C/xxx °F]

CPU Temperature [xxx °C/xxx °F]

オンボードのハードウェアモニタは、マザーボード、CPUの温度を自動的に検出して表示します。検出された温度を表示したくない場合は、無効を選択してください。

CPU Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

Chassis Fan Speed [xxxxRPM] or [N/A]

オンボードハードウェアモニタは、CPU、シャーシファンの毎分の回転速度 (RPM)を自動的に検出して表示します。ファンのどれかがマザーボードに接続されていない場合、特定のフィールドがN/Aを表示します。

VCORE Voltage, +3.3V Voltage, +5V Voltage, +12V Voltage

オンボードハードウェアモニタは、オンボード電圧レギュレータを通して電圧出力を自動的に検出します。

Smart Q-Fan Function [Disabled]

このフィールドを[Enabled]に設定しているとき、ASUS Q ファン機能の有効/無効を切り替えてファン速度をスマートに調整し、より効率的なシステム操作を実現します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]



次のアイテムは、スマートQファンアイテムが [Enabled] に設定されているときのみ表示されます。

Fan Auto Mode Start Voltage [5.0V]

ファンの自動モード始動電圧を設定します。

構成オプション: [4.0V] [2.5V] [5.0V] [5.5V] [6.0V]

Fan Auto Mode Start Speed Temp [25°C]

ファンの自動モード始動速度の温度を設定します。

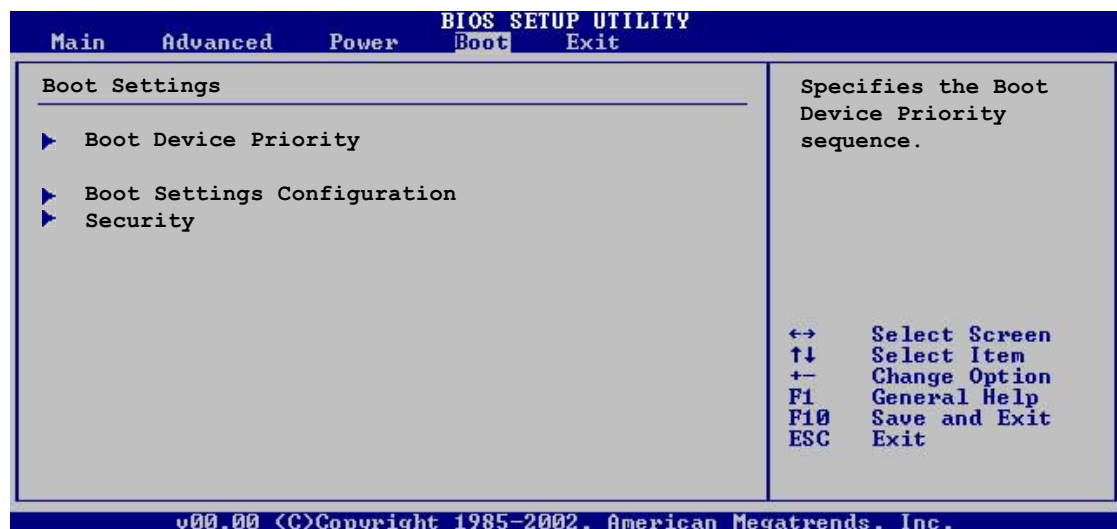
構成オプション: [25°C] ~ [75°C]

Fan Auto Mode Full Speed Temp [55°C]

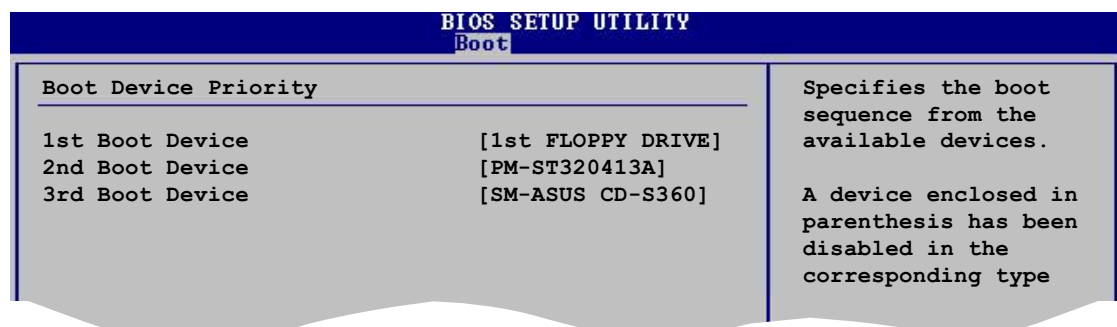
ファンの自動モードの最高速度の温度を設定します。
構成オプション: [25°C] ~ [75°C]

2.6 ブートメニュー

ブートメニューアイテムによって、システムのブートオプションを変更できません。アイテムを選択し <Enter> を押すと、サブメニューが表示されます。



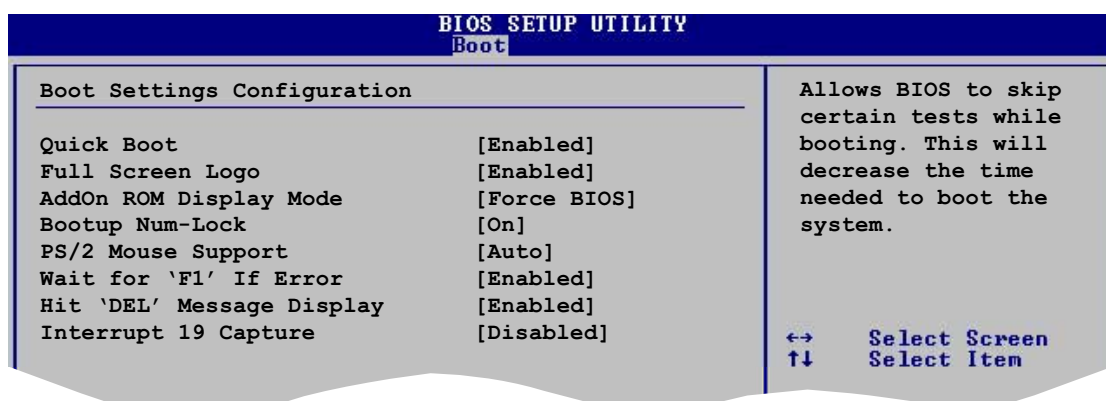
2.6.1 ブートデバイスのプライオリティ



1st ~ xxth Boot Device [1st Floppy Drive]

これらのアイテムは、利用可能なデバイスからブートデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスアイテムの数は、システムに取り付けられているデバイスの数によって異なります。構成オプション: [xxxxx Drive]
[Disabled]

2.6.2 ブート設定構成



Quick Boot [Enabled]

このアイテムを有効にすることによって、BIOSはブートしながら一部のパワーオンセルフテスト(POST)をスキップして、システムのブートに必要な時間を削減できます。[Disabled]に設定していると、BIOSは全てのPOSTアイテムを実施します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Full Screen Logo [Enabled]

[Enabled] に設定すると起動時にマザーボード固有の画像を表示します。設定できる値は : [Disabled] [Enabled]です。



ASUS MyLogo™ をお使いになる場合は、[Enabled] に設定してください。

Add On ROM Display Mode [Force BIOS]

オプションROMに対して、表示モードを設定します。構成オプション: [Force BIOS] [Keep Current]

Bootup Num-Lock [On]

NumLockの電源オン状態を選択できます。構成オプション: [Off] [On]

PS/2 Mouse Support [Auto]

PS/2マウスのサポートの有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled] [Auto]

Wait for 'F1' If Error [Enabled]

有効に設定していると、システムはエラーが発生したときにF1が押されるのを待ちます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Hit 'DEL' Message Display [Enabled]

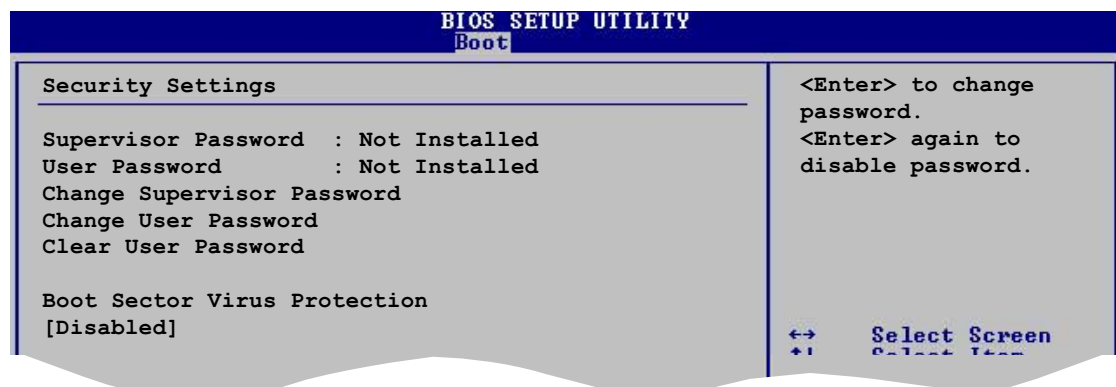
有効に設定されていると、システムはPOSTの間「DELを押してセットアップを実行」というメッセージを表示します。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

Interrupt 19 Capture [Disabled]

[Enabled]に設定しているとき、この機能によってオプションROMは割り込み19にトラップできます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

2.6.3 セキュリティ

セキュリティメニューアイテムによって、システムのセキュリティ設定を変更できます。アイテムを選択して<Enter>を押すと、構成オプションが表示されます。



管理者パスワードの変更

この相手区を選択するか、管理者パスワードを変更します。画面の上部にある管理者パスワードは、デフォルトのインストールされていないを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムはインストール済みを表示します。

管理者パスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. 管理者パスワードアイテムの変更を選択し、<Enter>を押します。
2. パスワードボックスから、少なくとも6つの文字と数字のパスワード組み合わせを入力し、<Enter>を押します。
3. 要求されたら、パスワードを確認します。

パスワードが正常に設定されたら、「パスワードが設定されました」というメッセージが表示されます。

管理者パスワードアイテムが、これでインストールされたことを示します。

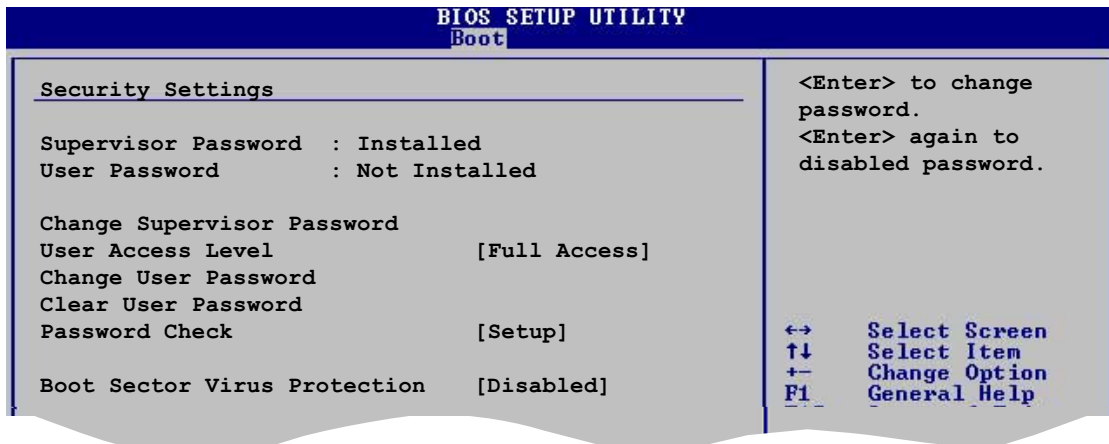
管理者パスワードを変更するには、ユーザーパスワードを設定するときと同じ手順を実行します。

管理者パスワードを消去するには、管理者パスワードの変更を選択し、<Enter>を押します。「パスワードが削除されました」というメッセージが表示されます。



BIOSパスワードを忘れた場合、CMOS リアルタイムクロック (RTC) RAMを消去することによって消去できます。RTC RAMを消去する方法については、「1.9 ジャンパ」をご覧ください。

管理者パスワードを設定すると、他のアイテムが表示され、他のセキュリティ設定を変更できるようになります。



ユーザーアクセスレベル [Full Access]

このアイテムによって、セットアップアイテムへのアクセス制限を選択できます。構成オプション: [No Access] [View Only] [Limited] [Full Access]

アクセスなしは、セットアップユーティリティへのユーザーアクセスを妨げます。

表示のみは、アクセスを許可しますが、フィールドの変更は一切許可しません。

制限付きは、日付や時間などの選択されたフィールドのみの変更を許可します。

フルアクセスは、セットアップユーティリティの全てのフィールドの表示と変更を許可します。

ユーザーパスワードの変更

このアイテムを選択すると、ユーザーパスワードを設定したり変更できます。画面上部のユーザーパスワードアイテムは、デフォルトの設定されていませんを表示します。パスワードを設定した後、このアイテムは設定されましたを表示します。

ユーザーパスワードを設定するには、次の手順を実行します。

1. ユーザーパスワードの変更アイテムを選択し、<Enter>を押します。
2. 表示されるパスワードボックスで、少なくとも6つの文字と数字のパスワード組み合わせを入力し、<Enter>を押します。
3. 要求されたら、パスワードを確認します。

パスワードが正常に設定されたら、「パスワードが設定されました」というメッセージが表示されます。

ユーザーパスワードアイテムは、設定されましたを表示します。

ユーザーパスワードを変更するには、ユーザーパスワードを設定するときと同じ手順を実行します。

Clear User Password

ユーザーパスワードを消去したい場合、このアイテムを選択します。

Password Check [Setup]

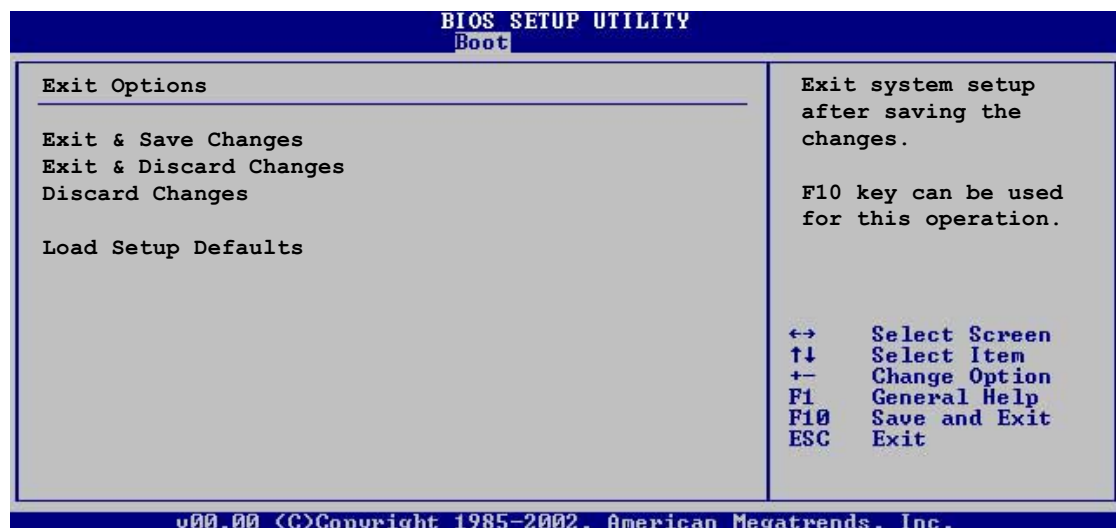
[Setup]に設定されていると、BIOSはセットアップユーティリティにアクセスするときユーザーパスワードをチェックします。[Always]に設定されているとき、BIOSはセットアップにアクセスしシステムをブートするとき、ユーザーパスワードをチェックします。構成オプション: [Setup] [Always]

Boot Sector Virus Protection [Disabled]

ブートセクタウイルス保護の有効/無効を切り替えることができます。構成オプション: [Disabled] [Enabled]

2.7 メニューの終了

終了メニューアイテムによって、BIOSアイテムに対して最適のまたはフェールセーフのデフォルト値をロードし、BIOSアイテムへの変更を保存したり破棄できます。



<Esc>を押しても、このメニューは直ちに終了しません。このメニューからどれかのオプションを選択するか、ツールバーから<F10>を選択して終了します。

変更を保存して終了

選択を終了したら、終了メニューからこのオプションを選択して、選択した値がCMOS RAMに保存されていることを確認します。CMOS RAMはオンボードのバックアップバッテリーに保存され、PCの電源をオフにしても消えることはありません。このオプションを選択すると、確認ウィンドウが表示されます。[Yes]を選択すると、変更を保存して終了します。



変更を保存せずにセットアッププログラムを終了しようとする時、プログラムは終了する前に変更を保存するかどうか尋ねるメッセージを表示します。<Enter>を押すと、終了するときに変更を保存します。

変更を破棄して終了

このオプションは、セットアッププログラムに行った変更を保存したくないときだけ、選択します。システムの日付やシステムの時間、パスワード以外のフィールドを変更すると、BIOSは終了する前に確認を求めます。

変更の破棄

このオプションによって、行った変更を破棄しそれまでに保存された値を復元します。このオプションを選択すると、確認が表示されます。[Yes]を選択すると、変更を破棄しそれまでに保存した値をロードします。

セットアップデフォルトのロード

このオプションによって、セットアップメニューのそれぞれのパラメータに関するデフォルト値をロードします。このオプションを選択すると、または<F5>を押すと、確認ウィンドウが表示されます。[Yes]を押すと、デフォルト値がロードされます。値を不揮発性RAMに保存する前に、変更を保存して終了を選択するか、他の変更を行ってください。

第3章

添付のサポートCDに収録されているソフトウェアの説明です。

サポートソフトウェア

3.1 OSのインストール

本マザーボードは Windows® 98SE/ME/2000/XP に対応しています。ハードウェアの最新機能を利用するために、各OSは最新バージョンのものを用いてください。



マザーボードの設定やオプション、拡張カードには様々な種類があります。次章からの説明は一般的な例で、お使いのシステムと異なる場合があります。

3.2 サポートCDについて

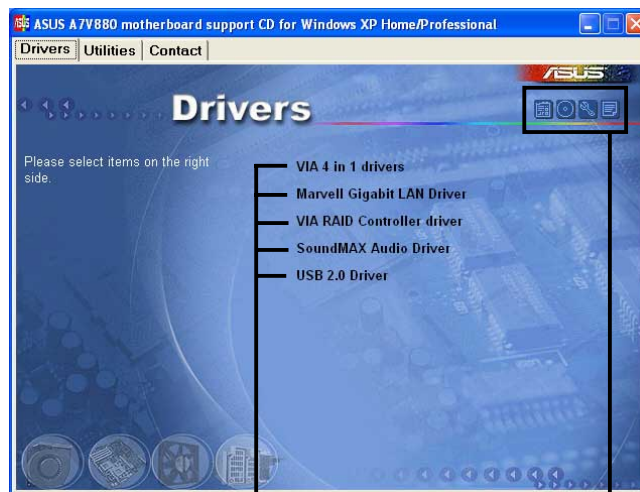
添付のサポートCDには、本マザーボードに必要なドライバ、ソフトウェア およびユーティリティが含まれています。OSのインストール後に、必ずインストールしてください。



サポートCDの内容は、予告なしに変更される場合があります。最新情報についてはASUSのWEBサイトをご覧ください。

3.2.1 サポートCDの起動方法

サポートCDを使うには、CD-ROMドライブにCDを挿入します。ドライバメニューが自動起動します。



インストールしたい項目をクリックします。

クリックすると詳細情報が表示されます。



メニューが起動しない場合は、BINフォルダ内の ASSETUP.EXE を実行してください。

3.2.2 ドライバメニュー

マザーボードに搭載されているデバイス用のドライバです。各デバイスの機能を有効にするために必要です。

VIA 4 in 1 drivers

以下のドライバをインストールします。

- VIA Registry (INF) ドライバ
- VIA AGP VxD ドライバ
- VIA ATAPI ベンダーサポートドライバ
- VIA PCI IRQ Miniport ドライバ

Marvell Gigabit LAN Driver

Gigabit LAN ソリューション用の Marvell® 88E8001 Gigabit LANドライバをインストールして、最高の 1000Mbps データ転送速度を提供します。

VIA RAID Controller driver

このアイテムは、VIA® 8237 RAIDコントローラドライバとアプリケーションをインストールします。

SoundMAX Audio Driver

ADI 1888 SoundMAX® AC' 97 準拠オーディオコントローラとアプリケーションをインストールします。

USB 2.0 Driver

USB 2.0ドライバをインストールします。

3.2.3 ユーティリティメニュー

本マザーボードでサポートされているユーティリティに関するメニューです。



ASUS PC Probe

コンピュータのファン回転数・温度・電圧などのハードウェア情報をモニターすることができるユーティリティです。システムの監視に役立ちます。

Install ASUS Update

最新バージョンのBIOSをWEBサイトから自動でダウンロードするユーティリティです。ASUS Updateを使用するには、あらかじめインターネットに接続しておく必要があります。ASUS 更新をインストールすると、ASUS Mylogo™ もインストールされます。

PC-CILLIN

PC-cillin アンチウィルスソフトウェアをインストールします。詳しくは、オンラインヘルプを参照してください。

Acrobat Reader

PDF形式のマニュアルを見るために必要な Adobe Acrobat® Reader V5.0 をインストールします。最新および他言語のマニュアルが、PDF形式でASUSのサイトにあります。

ASUS Screen Saver

ASUS特製スクリーンセーバーをインストールします。

3.2.4 ASUS サポート情報

ASUSのサポート情報です。本書にあるサポート情報とあわせてご利用ください。この情報は、本書の表紙の裏に載っています。



3.3 ASUS インスタントミュージックライト

マザーボードには、Instant Music Liteと呼ばれるBIOSベースのオーディオ再生機能が搭載されています。この機能はオンボードオーディオAC197 CODECによりサポートされ、光学ドライブ（CD-ROM、DVD-ROMまたはCD-RW）を必要とします。



- ・ インスタントミュージックライトは、オーディオフォーマットのCDのみをサポートします。
- ・ アドオンカードを取り付けて有効にしていると、インスタントミュージックライトは機能しません。
- ・ インスタントミュージックライトは、PS/2キーボードのみをサポートします。

ASUS Instant Music Liteを有効にする:

1. 光学ドライブ（CD-ROM、DVD-ROMまたはCD-RW ドライブ）から出るアナログオーディオケーブルを、マザーボードの4ピンCDインコネクタ（CD1とラベル）に接続します。コネクタの位置に関しては、「1.10 コネクタ」をご覧ください。



CD-ROM オーディオケーブルを接続していることを確認してください。接続していないと、インスタントミュージック機能キーを使用して、オーディオボリュームをコントロールできません。

2. システムをオンにし、パワーオンセルフテスト(POST)の間にキーを押してBIOSに入ります。
3. Music Configuration（ミュージック実行構成）メニューで、Instant Music を選択し、Enabled に設定します。ユーザーガイドの「2.4 詳細メニュー」をご覧ください。
4. Instant Music CDRomアイテムを強調表示し、Enterを押してCD-ROMオプションを表示します。この機能に対して使用したいCD-ROM ドライブを選択してください。ユーザーガイドの「2.4 詳細メニュー」をご覧ください。



システムに1台の光学ドライブ（CD-ROM、DVD-ROM、CD-RWのどれか）しか取り付けしていない場合、Instant Music CDRomアイテムを設定する必要はありません。BIOSは取り付けられたドライブのタイプを自動的に検出して表示します。

5. 変更を保存してBIOSセットアップを終了します。

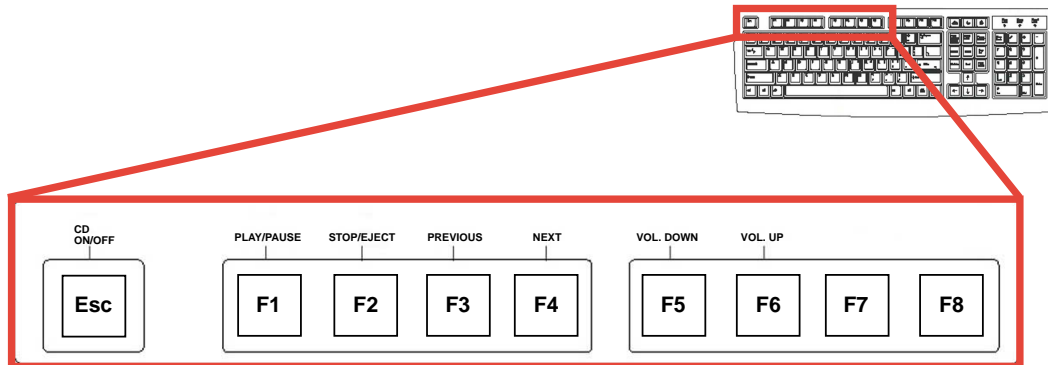


- ・ インスタントミュージックを有効にした後、スクロールロックLEDはオンに固定されます。
- ・ CD再生を一時停止にすると、Caps Lock LED がオンになります。
- ・ インスタントミュージックモードに設定されているとき、システムの呼び起こし機能（LAN,キーボード、マウス、USB）は非アクティブになっています。この場合、電源スイッチを使用してシステムの電源をオンにします。
- ・ システムが接続を失ったり光学ドライブを検出できない場合、インスタントミュージック機能は自動的にオフ（無効）になります。「ビーブ」音はこの状態を示しています。

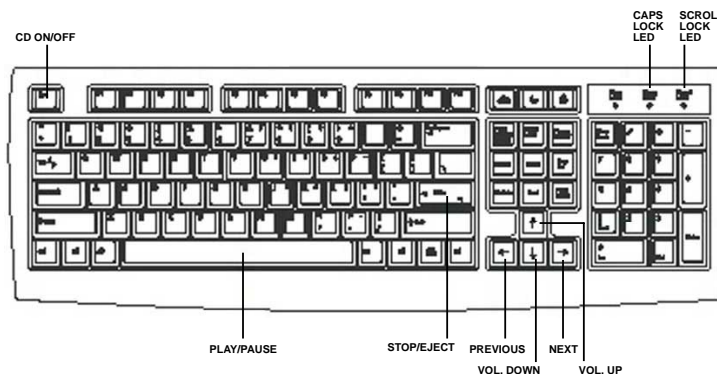
ASUS インスタントミュージックライトを使用する:

1. システムにスタンバイ電源が供給されるように、電源コードがアースされた電源に差し込まれていることを確認します。
2. キーボードの特殊機能キーの2つのセットのどちらからを使用し、オーディオCDを再生します。BIOSでInstant Music アイテムを有効にしておくと、これらのキーは示された機能のみを実行します。

インスタントミュージックの機能キー (セット1)



インスタントミュージックの機能キー (セット2)



3. スピーカーやヘッドフォンを、オーディオ出力用にリアパネルのラインアウト (ライム色) に接続します。ヘッドフォンを、CD-ROMドライブのフロントパネルのヘッドフォンジャックに接続することもできます。
4. Escを押すと、インスタントミュージックライトがオンになります。
5. オーディオCDをドライブに置きます。
6. F1またはスペースバーを押すと、CDの最初のトラックが再生されます。



ドライブにCDがない場合、F1またはスペースバーを押すと、ドライブトレイが出てきます。

7. 前ページのインスタントミュージック機能キーの定義を参照して、他のトラックを選択したり、ボリュームを制御してください。
8. F2またはEnterを一度押すと、CDの再生が停止します。F2またはEnterをもう一度押すと、CDが出てきます。